

日
整

はつらつ!

文部科学大臣杯争奪 第20回 日整全国少年柔道大会

絆を大切に 感謝の心!

真面目に一途にひたむきに!



●目次

第19回日整生涯学習講習会	1
（日整トピック）公益社団法人に認定された日本柔道整復師会	3
第20回日整全国少年柔道大会	4
第1回日整全国少年柔道形競技会	9
第35回日整全国柔道大会	10
第38回日整親善ゴルフ群馬大会	17
輝ける未来への取り組み《中国ブロック》	21
（柔整サロン）「柔道整復師はもっと評価されていい！」 山口県出身プロレスラー・長州力選手に聞く!!!	28
（私の夢）挑戦！	36
私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています	
●公開健康講座&講習会●	37
新潟県 佐渡市民公開講座 愛知県 認知症に対する運動効果を紹介 三重県 学術研修会・保険集 団指導会 兵庫県 第2回スポーツ科学講習会／第3回スポーツ科学講習会 大阪府 第1回医療 人（柔道整復師）研修講座／第2回府民健康づくり講座／第5回「大阪学会」 広島県 第1回学 術部主催研修会	
●接骨医学会主催研修会●	43
北海道 2011年日本柔道整復接骨医学会主催研修会（北海道会場）	
●医接連携●	46
千葉県 第13回千葉県整形外科病診連携セミナー開催	
●防災・救護・スポーツボランティア活動●	48
神奈川県 災害時医療救護活動研修会参加報告 長野県 23年度長野県総合防災訓練 石川県 第61 回全日本実業団バドミントン選手権大会／2011年日本スポーツマスターズ石川大会／第25回猿 鬼歩こう走ろう健康大会／全日本こまつ鉄人レース2011 愛知県 トライアスロン大会を支援／ 県総合防災訓練に参加	
●介護関連活動●	52
兵庫県 デイサービスを開設／「機能訓練指導員フォローアップ講習会」開催	
●東日本大震災「日整と都道府県社団法人柔道整復師会の温かい支援」●	53
青森県・山形県・群馬県・千葉県・神奈川県・山梨県・東京都・新潟県・長野県・石川県・福 井県・静岡県・愛知県・岐阜県・滋賀県・京都府・和歌山県・兵庫県・大阪府・岡山県・山口 県・島根県・高知県・福岡県・佐賀県・大分県・長崎県・宮崎県	
未来を担う子供たち、健やかに育てる！	
●少年柔道大会の開催●	59
北海道 第34回北整柔道大会・第20回記念北整全道少年柔道大会・第1回北整全道少年柔道形競 技会 東京都 第42回公益社団法人東京都柔道接骨師会柔道大会 奈良県 第20回日整全国少年柔 道大会奈良県予選会 大阪府 第57回大阪柔整少年柔道大会（中学生の部）・第56回大阪柔整柔道 団体優勝大会 広島県 第13回（社）広島県柔道接骨師会少年柔道大会	
■学術シリーズ（第7回）	64
身体機能を考えたテーピング	
●公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧	66
●投稿●	67
北岳登山／国際少年柔道大会／夢中で書き続けました／日接医学会で発表の演題が 「産学官連携プロジェクト実習テーマ」に採用／書「我日本」西郷隆盛作	
《ちょっといい話》	70
■日整文芸	71
■編集後記	72

第19回 日整生涯学習講習会

(国際部報告会・学術講習会・生涯学習講習会)

学術部生涯学習担当 岩本 芳照

第19回目を迎える今年の日整生涯学習講習会は、国際部報告会・学術講習会を加えた内容で行われた。当日は公開講座として東京医科歯科大学名誉教授の藤田紘一郎先生を講師に迎え特別講演をしていただき、一般の方々にも聴講の場を提供した。

大いに笑って免疫力をアップ!

■特別講演

『イキイキ長寿健康法
—免疫力を高める生活習慣—』

講師：東京医科歯科大学名誉教授
人間総合科学大学教授
藤田紘一郎先生

(著書:「笑うカイチュウ」「恋する寄生虫」「清潔はビョーキだ」など多数)



◀講演する藤田先生

〈講演要旨〉大学時代に柔道部だったときには整形外科医になる予定だったが、トイレで会った熱帯病調査団の団長に進められ調査に加わったことからバイ菌学をやり出した。以後、貧乏している、と笑いを取りながら愉快的話が続く。

出身地の戦後の三重県明星村や調査に行ったインドネシアのカリマンタン島現地人は回虫を持っており皮膚がキレイ。我々の体には毎日5,000個のガン細胞ができるが、NK細胞がその増殖を抑えている。笑えばそのNK細胞が増えるので大いに笑いましょう。

ネズミの実験で、ストレスを与えてアトピーにしたねずみに回虫から遺伝子組み換えで作った薬を与えたら免疫機構のTh-2が増殖し一発でアトピーは治った。しかし逆にTh-1が小さくなった結果、ガンになりやすくなって失敗した。

このようにアレルギー性疾患とガンのようなバランスの病気は西洋医学では治せない。自然治癒力を重視する東洋医学的発想が必要である。

自分は回虫サナダムシのキヨミちゃんを腸内に飼っており、その分泌物などのタンパク質がTh-1、Th-2を刺激するのでアトピーやガンになりにくい。回虫は宿になっている身体を大事にするので決して害はない。寄生虫とヒトと



▲藤田先生の講演を一般の方々も聴講した

の共生の妙である。

人体には約2kgにもなるバイ菌がいてヒトの健康に役立っている。皮膚常在菌も回虫のようにヒトを守ってくれているので、洗い過ぎは良くない。風呂は2～3日に1回でよい。

五木寛之はめったに頭を洗わないしタモリは風呂で石鹸を使わない。若い女性に膣炎が増加しているのも膣の洗い過ぎが原因である。膣内を強い酸性にしてくれているデーデルライン乳酸菌を洗い出しているからである。

最大の自然治癒力は腸内細菌が握っている。文明が発達し環境が変わったが、身体は1万年前と同じで、「身体の中に仏が宿る」である。

戦後の食物繊維摂取量が減ったことで腸内細菌が減少し免疫力が低下した。0-157は発展途上国には存在しない。雑菌が多いと増えないからである。

だから学校給食などのように消毒や滅菌を徹底するところに発生する。しかも神経質な家の子供に多い。日本人の潔癖症が悪い。「清潔はビョーキだ」。

免疫力を上げるためにはどうすればいいのか？ キタなくする、多くの野菜を食べる、大いに笑う、イヤな人とは付き合わない、責任は人のせいにする（笑）、ポジティブシンキングで暮らしましょう。

【国際部報告会】

本間部員の司会で、萩原部長挨拶、ジャイカ（JICA）中野氏のモンゴル国におけるJICA活動報告とご挨拶があった。

その後、根来部員からパワーポイントを使った詳細な活動報告が行われた。

JICA 支援型プロジェクトとして、モンゴル



▲JICAの中野氏

国立健康科学大学における数回の基礎講習会開催、地方班が指導者講習会として行ったドルノゴビ、スフバードル、ヘンティ、バヤンホンゴル、ドルノゴビなどにおける活動、一般公開セミナーなどの開催風景や大使館への活動報告などの説明があった。

また、厳しい応募状況を乗り越えて本年9月1日には「草の根技術協力パートナー型」の契約に至り、今後「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」として最長5年間1億円の資金がJICAより受けられるとのことであった。

【学術講習会】

司会役の酒井部員より富山大学が企画している大規模多施設臨床試験についての説明と要請があった。

その後、講師である富山大学大学院教授西条寿夫先生のパワーポイントによる寄附講座報告内容は次の通りであった。



▲講演する西条教授

現在進められている研究は、「柔道整復学」の確立を目指すために手始めとして急性・亜急性の軟部組織痛、特に頸部痛・腰部痛に対する柔道整復手技療法の有効性を示すことである。腰痛とは？ 85%は非特異的腰痛（原因が特定できない）である、として米国及び日本の現状説明があった。

MRIなどの画像診断は、腰痛症状と相関しない。悪性腫瘍、脊椎感染症などは見落とすことはない。

大半の腰痛患者は通常、生活を継続でき、再発しても器質的異常は見られない。仕事に早期復帰するほうが経過良好。

薬として使用されている非ステロイド性消

炎鎮痛剤は元を治していないので再発する。安静より早期離床がよく早く治る。牽引など各種物療の有効性は明らかでない。腰椎々間板ヘルニアは保存療法が第1位の選択順位である。早期治療介入で防止する方がよい。などであり、富山大での研究では、急性・亜急性腰痛にはトリガーポイント（TP）を圧迫する方法を用い、対象群と比較した研究結果、TP圧迫の有効性が明らかであると報告された。

ただし、腰痛症の主要原因はTPではないかと考えられる結果が出たものの、20例の研究では症例数が不足しており、日整会員による全国的な多くの施設臨床試験が必要なので、ぜひ協力していただきたい。

【生涯学習講習会】

一般公開講座となり、中川部員の司会で進行、まず、全国ボランティア活動報告（中国ブロック）が行われた。

広島県の植田寿英会員、長岡正樹会員より「広島県におけるボランティア活動について」と題した報告であった。



▲広島県 植田会員



▲長岡会員

〈広島県柔道接骨師会の対外的な活動〉

- はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会ボランティア活動
- ひろしま国際平和マラソン救護活動
- 広島県柔道接骨師会介護予防教室
- 広島県柔道接骨師会少年柔道大会
- 21世紀、県民の健康とくらしを考える広島県民フォーラム
- 広報誌「柔接ひろしま」
- 県内開催柔道大会・スポーツイベントへの救護員派遣および助成・協賛

※引き続いて特別講演が行われた。（要旨前掲）

日整トピック

公益社団法人に認定された日本柔道整復師会

本会は、社団法人日本柔道整復師会から公益社団法人日本柔道整復師会への移行認定申請を平成22年12月3日に菅直人内閣総理大臣へ提出し、平成23年8月26日に認定され、9月1日に登記しました。認定を受けたあとの法人の名称は「公益社団法人日本柔道整復師会」、代表者の氏名は「萩原正」、主たる事務所の所在地は「東京都台東区上野公園16番の9」です。公益社団法人日本柔道整復師会は、常に世の中に貢献する広い視野に立って社会の負託に応え、公益法人としての責務を果たしていきます。

※公益社団法人日本柔道整復師会は、47都道府県に1つずつある社団法人組織（東京と大阪は公益社団法人）の柔道整復師が入会している大きな団体で、会員数約17,000名を擁し、日本の柔道整復師業界を率先しています。

文部科学大臣杯争奪

第20回 日整全国少年柔道大会

後援 文部科学省・東京都・(財)講道館・(財)全日本柔道連盟・(財)東京都柔道連盟・産経新聞社

神奈川県が2年連続3度目の優勝

平成23年10月10日(体育の日)に全国47都道府県から予選を勝ち抜いた強豪48チーム(東京はA・B2チーム)が集結し、講道館大道場において第20回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会が盛大に開催され、神奈川県が2年連続3度目の優勝を飾った。

開会式の席上で萩原正大会会長は「東日本大震災により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げ、一日も早く活気を取り戻されることをお祈り申し上げるとともに、今震災で復興に取り組んでおられる東北3県から予選を勝ち抜いて出場される選手の皆様に心から拍手を送ります。この大会は日本古来の伝統武道である柔道を通じ、心身の健全なる育成に努めるとともに、柔道の普及発展への寄与を目的としております」と挨拶した。

今回の大会から第1回日整全国少年柔道「形」競技会が同時に開催され、各地区(柔道ブロック)より予選を経て1チーム、計15チームが出場して技、礼法などを競い合った。

■開会式

〈自民党 谷垣総裁が祝辞〉

絆を大切に 感謝の心を!

〈産経新聞社 平田企画室長が激励〉

真面目に一途にひたむきに!

秋晴れの清々しい天候に恵まれ、全国から選ばれた選手たちが緊張と不安が入り混じった表情の中にも闘志を燃やし元気よく入場し、開会式が始まった。

岡本和久大会委員長の開会宣言、萩原正大会会長挨拶に続き、来賓として出席された自民党の谷垣禎一総裁は、祝辞の中で「本日の大会に、震災の被災県からも代表が参加し、頑張っていることを示して下さったことをとても頼もしく思います。柔道は試合のときに全力を出し切る、そして

頑張ることはなによりも必要ですが、もう一つ覚えていただきたいことがあります。それは、日本は人と人との絆があって、今の日本の国があります。絆とは人のことを思いやる気持、人と人が一緒になって頑張る気持です。皆さんがこの大会に出場するまでに、家族の絆、指導して下さる先生との絆、試合や練習をする仲間との絆、そのほか多くの絆に見守られてきたと



▶萩原日整会長が大会会長として挨拶



▶祝辞を述べる谷垣自民党総裁



選手たちに励ましと復興を願う大きな拍手が送られた。

その後、佐藤正審判長から試合上の注意があり、昨年度優勝の神奈川県代表の織茂友多郎選手による力強い選手宣誓が行われた。

開会式が終了、4試合場に分かれて将来を担う小さな巨人たちの白熱した戦いが展開された。

思います。これからも人と人の絆を大切に、周りの人に対する感謝の心を忘れずに柔道が続けてください」と述べられた。

続いて挨拶に立った産経新聞社総合企画室の平田篤州室長は「全力を出し切り感動を生み出すことです。一番大切なことは真摯であること。それは誠意をもって真面目に一途にひたむきに

走ることです。柔道一直線、相手を敬い最後まで戦ってください」と激励の言葉を贈られた。

時間の都合上、ご祝辞をいただけなかった来賓紹介の後、著名人や関係団体などからの祝電が披露された。

優勝杯・準優勝杯返還の後、東日本大震災において、大きな被害を受けた岩手県・宮城県・福島県の本大会出場選手へ、公益社団法人日本柔道整復師会の正副会長から激励の品が贈呈された。会場からはこの大変な試練と闘いながら練習を続けてきた



▲被害県の選手たちに激励品を贈呈

実績の神奈川県が2連覇!!

第20回大会は、神奈川県が2連覇達成で初の快拳となった。準優勝の茨城県は、ここ数年クジ運に恵まれず、昨年は優勝した神奈川県に2回戦で惜敗している。昨年準優勝の奈良県は1回戦で敗退した。

■試合経過

〈第1試合場〉

神奈川県が勝ち上がり、敢闘賞に大分県、フェアプレー賞に鹿児島県が選ばれた。

〈第2試合場〉

三重県が勝ち上がり、敢闘賞に兵庫県、フェアプレー賞に北海道が選ばれた。

〈第3試合場〉

茨城県が勝ち上がり、敢闘賞に福井県、フェア



アプレー賞に山梨県が選ばれた。

〈第4試合場〉

東京Aが勝ち上がり、敢闘賞に京都府、フェアプレー賞に熊本県が選ばれた。

〈準決勝〉

準決勝は、第1・第3試合場で行われた。

第1試合場では、神奈川県が4-0で三重県を破り決勝に進んだ。

第3試合場では、茨城県が3-1で東京Aを破り決勝に進んだ。

〈決勝〉

決勝戦は、第1試合場で大きな歓声の中、神奈川県対茨城県の白熱した戦いとなり、2-1の接戦の末、神奈川県が2連覇を達成した。

優勝した神奈川県には、城井崇文部科学大臣政務官より文部科学大臣表彰と杯が贈られた。



萩原会長より日整会長表彰が贈られた。工藤副会長より大韓民国柔道連盟杯、松岡副会長よりモンゴル国友好杯が授与された。また産経新聞社代表より産経新聞社表彰と杯が授与された。

■優勝チームインタビュー

神奈川県 朝飛 大 監督 (談)

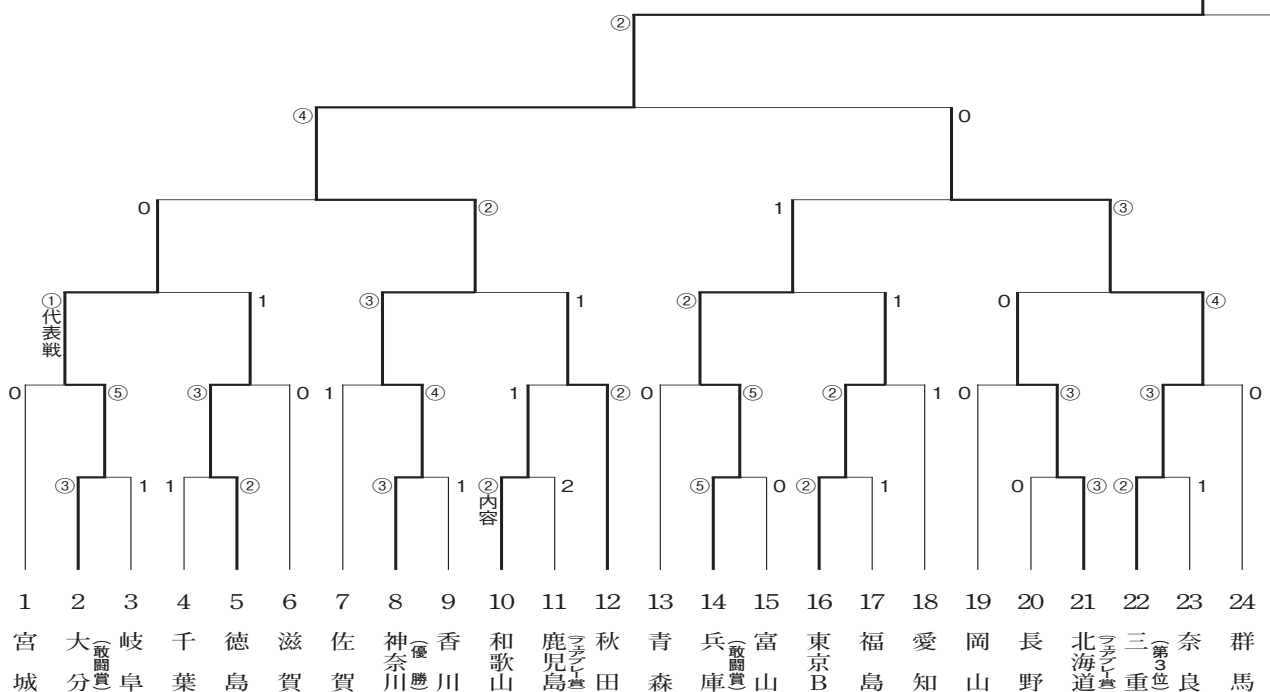
昨年に引き続き優勝ができましたが、今年は昨年のようなポイントゲッターがいない分、皆で勝負に行き、正攻法で攻めたのが勝因だと思います。

神奈川県 織茂 友多郎君 (談)

茨城県の長島君にはいつも負けていたけど、決勝戦は頑張って勝てたのが優勝につながり、よかったです。



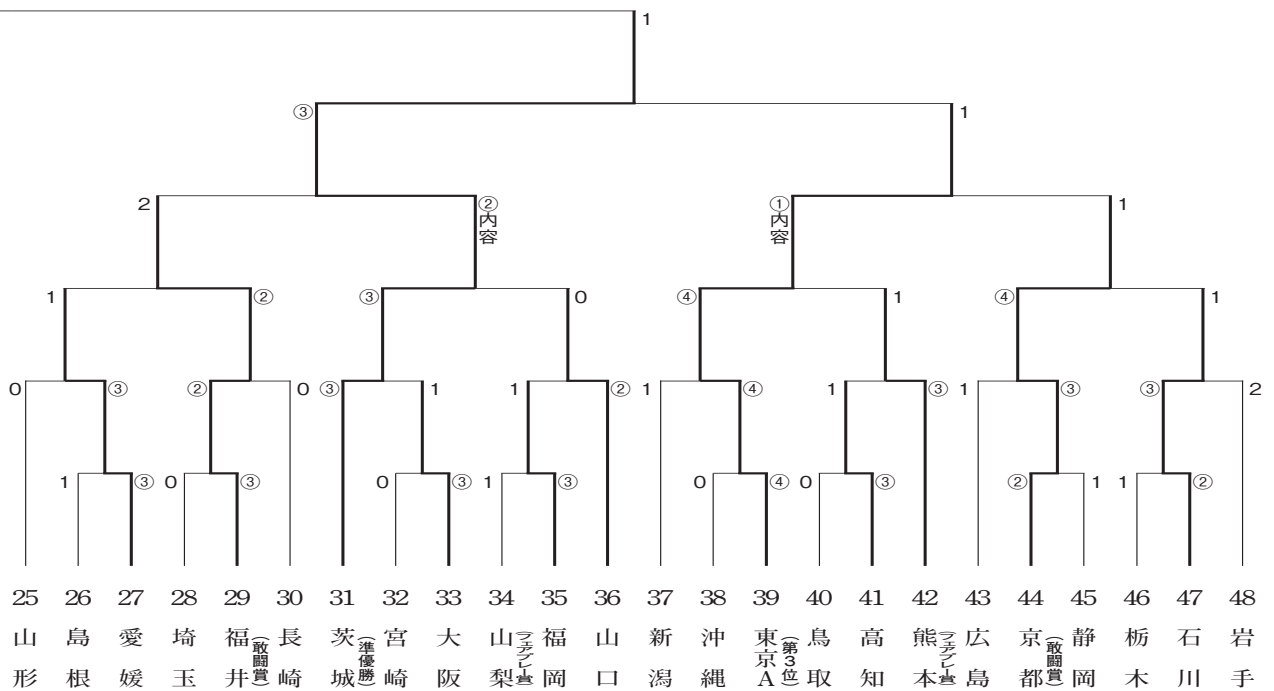
神奈川県 = 優勝



勝負!!



▲よくがんばった!



▶ 日整全国少年柔道大会の結果

優勝 神奈川県
準優勝 茨城県
3位 三重県・東京A
敢闘賞 大分県・福井県・兵庫県・京都府
フェアプレー賞 鹿児島県・山梨県・北海道・熊本県
優秀選手賞 織茂友多郎（神奈川県）
 賀持 喜道（神奈川県）
 長島 光希（茨城県）
 山梨 良悟（三重県）
 藤永龍太郎（東京A）



▲ 優秀選手賞

▶ 優勝
（神奈川県）



		監督		朝 飛 大				
	氏名	学年	身長	体重	生年月日	性別		
大将	関根 聖隆	6	157	67	H11. 7. 5	男		
副将	織茂 友多郎	6	162	60	H11. 4. 27	男		
中堅	鈴木 啓互	5	150	66	H12. 8. 11	男		
次鋒	賀持 喜道	5	154	63	H12. 7. 18	男		
先鋒	秦 七 伎	4	146.5	63	H13. 5. 2	男		

▶ 準優勝
（茨城県）



		監督		菅 谷 俊 雄				
	氏名	学年	身長	体重	生年月日	性別		
大将	飛田 歩夢	6	174.5	93	H11. 4. 24	男		
副将	長島 光希	6	166	55	H11. 6. 8	男		
中堅	酒井 陸	5	164	84	H12. 7. 14	男		
次鋒	村尾 三四郎	5	153	50	H12. 8. 28	男		
先鋒	藤井 俊輔	4	137	47	H13. 4. 7	男		

▶ 3位
（三重県）



		監督		橋 本 誠				
	氏名	学年	身長	体重	生年月日	性別		
大将	山科 良悟	6	166	58	H11. 6. 6	男		
副将	新井 涼平	6	157	49	H11. 8. 12	男		
中堅	磯部 昂佑	5	150	62	H12. 7. 7	男		
次鋒	弓矢 健奨	5	140	43	H12. 11. 15	男		
先鋒	山口 隆乃	4	150	70	H13. 8. 8	男		

▶ 3位
（東京A）



		監督		向 井 幹 博				
	氏名	学年	身長	体重	生年月日	性別		
大将	平田 樹	6	153	53	H11. 8. 24	女		
副将	山中 堅盛	6	153	47	H12. 1. 10	男		
中堅	今田 光星	5	155	75	H12. 9. 11	男		
次鋒	高橋 瑠璃	5	152	62	H12. 7. 13	女		
先鋒	藤永 龍太郎	4	147	63	H13. 8. 23	男		

第1回 日整全国少年柔道形競技会

栄えある優勝は九州代表宮崎県

開会式終了後、直ちに国際部道場（6階）において、各地区（柔道ブロック）15チームが出場し、第1回日整全国少年柔道形競技会が開催された。競技種目として、投の形（手技・腰技・足技のみ）形9本、演技は各組1回とし、取・受を一体と見て評価し、「形」の技、及び「礼

法」、「全体の流れ」を採点した。

上位4組（1位～4位）は決勝戦の前、4会場で投の形演武を披露した。大人顔負けの迫力ある名演武に会場から「うまい・よく練習している」とささやき声が聞こえてきた。

■形競技結果



▲九州ブロック



▲南関東ブロック



▲東京ブロック



▲中国ブロック



九州ブロック 山田 聖斗君（宮崎県）6年（談）
白波 大喜君（宮崎県）4年（談）

練習した結果が出たのでよかったです。

今までの練習をあきらめなかったのがよかったです。

※柔道の「形」とは、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎先生が考案。いわゆる「競技柔道（試合）」が文章でいう作文なら、「形」は文法に当たるとされる。技を仕掛ける「取」と技を受ける「受」の2人で行う。

〈優勝〉九州ブロック

（取）山田 聖斗君（宮崎県）6年
（受）白波 大喜君（宮崎県）4年

〈準優勝〉南関東ブロック

（取）和田 拓人君（神奈川県）4年
（受）高橋 宏樹君（神奈川県）6年

〈第3位〉東京ブロック

（取）杉山 亮太君（東京都）6年
（受）山坂 武蔵君（東京都）5年

〈第4位〉中国ブロック

（取）富田修一郎君（岡山県）6年
（受）黒住 忠修君（岡山県）6年

■優勝インタビュー

九州ブロック 見原 道生 監督（談）

優勝を狙って厳しい稽古を積んできた。優勝ができてホッとしている。



◀ 大道場で演武披露

第35回 日整全国柔道大会

後援 厚生労働省・東京都・(財)講道館・(財)全日本柔道連盟・(財)東京都柔道連盟・産経新聞社

東京ブロックが昨年のリベンジ果たす

日整全国少年柔道大会に引き続き、午後1時から第35回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会が盛大に開催された。全国14ブロック（北信越西部A・Bチーム）15チームが集結して、初めての国際ルールで臨んだ大会は、東京ブロックが昨年の覇者、北信越西部Aに僅差で雪辱を果たし、2年ぶりの優勝を飾った。

■開会式

開会式では国歌斉唱、日整会歌斉唱の後、岡本和久大会委員長の開会宣言が行われた。

挨拶に立った萩原正大会会長は「本大会に震災の復旧・復興のために東北ブロック選手が不参加となりましたが、来年はぜひとも元気な姿で参加していただきたい。選手の皆様、本日のご健闘を心からお祈りいたします」と述べた。

来賓として自由民主党衆議院議員の平沢勝栄氏、社団法人全国柔道整復学校協会会長の坂本歩氏、学校法人花田学園東京有明医療大学理事長の櫻井康司氏からご祝辞をいただいた後、優勝旗・優勝杯の返還が行われた。

引き続き功労者表彰が行われた。北信越東部ブロックの小林修選手が代表として出場証を受け取ったあと、会長特別表彰が授与された。

佐藤正審判長から試合上の注意があり、その後、北信越西部ブロックの城濱忠信選手が力強い選手宣誓を行った。「形」の演武のあと直ちに4試合場に分れ、熱戦が繰り広げられた。



▲優勝した東京ブロック



▲選手宣誓(北信越西部ブロック・城濱選手)



◀佐藤審判長



■特別功労者表彰

〈選手として通算15回出場〉

薄井 敏朗 (千葉県)



◀特別功労賞 (15回出場)

〈選手として通算10回出場〉

狩野 浩一 (群馬県) 川口 稔 (福井県)

森川 雄策 (山口県) 檜山 尚浩 (福岡県)



◀特別功労賞 (10回出場)

■形の演武

「柔の形」

(取) 初段 川村 麻衣 (群馬県) 右

(受) 五段 櫻井 太郎 (群馬県) 左



■功労者表彰

〈選手・形演武・監督・審判として通算5回出場〉

工藤 渉 (青森県) 一ツ柳 明 (茨城県)

登本 茂芳 (埼玉県) 渡邊 秀樹 (山梨県)

畑山 元政 (東京都) 岩下 貴士 (長野県)

高塚 剣 (愛知県) 中井 孝好 (三重県)

三並 孝豪 (岐阜県) 吉本 大輔 (高知県)

小林 信哉 (福岡県) 平山 隆裕 (佐賀県)



■会長特別表彰

第2回世界柔道「形」選手権大会

「柔の形」優勝 大森 千草 (長野県)



「五の形」

(取) 六段 細貝 昭吾 (群馬県) 左

(受) 六段 藤川 進 (群馬県) 右



「五の形」

(取) 六段 森 正仁 (愛知県) 左

(受) 五段 相羽 秀昭 (愛知県) 右



■試合経過

〈第1 試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった北信越西部Aと近畿の戦いの結果、2-1で北信越西部Aが勝ち準決勝に進んだ。

〈第2 試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった南関東と東海東部の戦いの結果、2-1で東海東部が勝ち準決勝に進んだ。

〈第3 試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった北海道と東京の戦いの結果、4-1で東京が勝ち準決勝に進んだ。

〈第4 試合場〉

1回戦を勝ち上がった大阪は四国に2-0で勝ち、準決勝に進んだ。



〈準決勝〉

準決勝は第1・第3試合場で行われた。

第1試合場では、北信越西部Aが東海東部に3-2の接戦で勝ち、決勝に進んだ。

第3試合場では、東京が大阪に3-2の接戦で勝ち、決勝に進んだ。

〈実力伯仲した決勝戦〉

決勝戦は昨年と同じ顔合わせになり、白熱した展開となった。内容も全く同じの2-2で代表戦となった。今年から国際ルールのため代表戦は引き分けした組が再試合をする決まりであるが、本大会の申し合わせ事項により、監督推薦で次鋒の田中選手（北信越A）と杉本選手（東京）の戦いになった。両者一步も譲らず、全くの互角で戦いが終了、旗判定の結果2-1に分れ、東京に軍配が上がった。整列のあと、全員が中央で固い握手を交わし、お互いの健闘を称え合った。



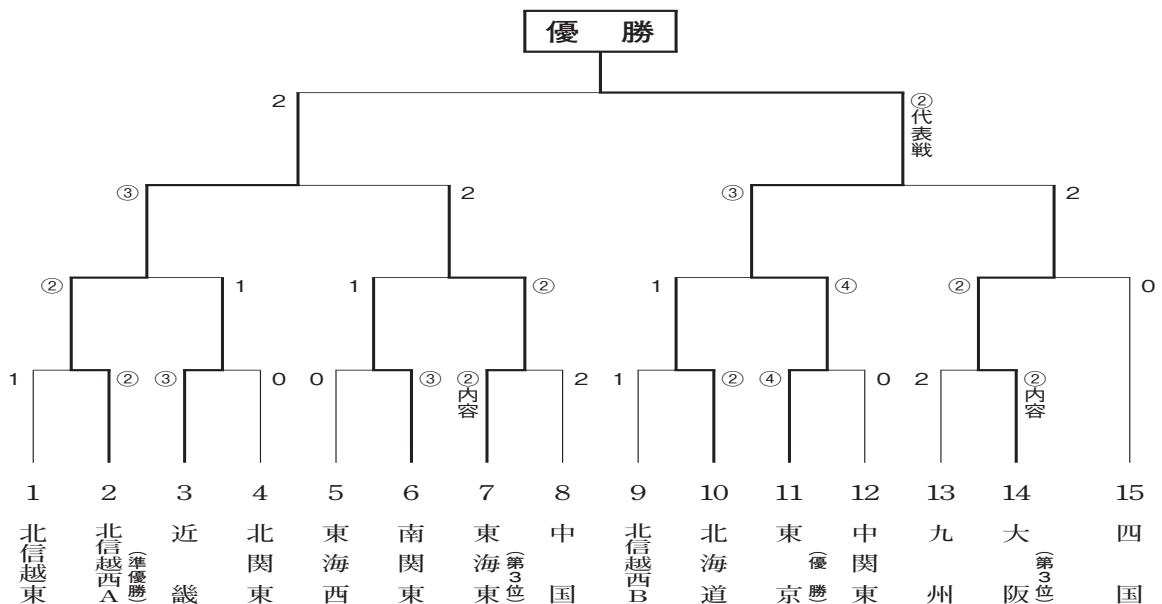
■優勝インタビュー

東京ブロック 監督 原 豊 六段（談）

初めての監督という重責でしたが、非常に厳しい戦いでしたが優勝できて嬉しいです。

東京ブロック 大将 難波 英樹 七段（談）

お蔭様で全員一丸となって優勝ができ、感謝しています。ありがとうございました。



第35回日整全国柔道大会の結果

優勝 東京ブロック
 準優勝 北信越西部Aブロック
 第3位 大阪ブロック
 東海東部ブロック
 優秀選手賞 杉本 秀人 (東京)
 大村 昌弘 (東京)
 小倉 弘行 (北信越西部A)
 石居 謙二 (大阪)
 石田 雅明 (東海東部)



▲優秀選手賞

▼優勝 (東京ブロック)



東京						
監督		6段 原 豊		身長	体重	年令
	段位	氏名				
大将	7段	難波	英樹	173	90	55才
副将	5段	別所	道記	178	110	42才
中堅	4段	岡本	栄治	180	100	33才
次鋒	4段	杉本	秀人	174	110	33才
先鋒	3段	大村	昌弘	180	115	32才

▼準優勝 (北信越西部Aブロック)



北信越西部A						
監督		6段 ニツ谷 剛彦		身長	体重	年令
	段位	氏名				
大将	4段	宮越	務行	170	90	52才
副将	5段	小倉	弘行	183	100	42才
中堅	6段	城寶	忠信	174	93	35才
次鋒	5段	田中	寿人	175	90	32才
先鋒	2段	宮越	将太	170	84	25才

▼3位 (大阪ブロック)



大阪						
監督		7段 田中 義昭		身長	体重	年令
	段位	氏名				
大将	3段	石居	謙二	174	99	51才
副将	5段	平田	和義	176	100	40才
中堅	6段	桂	剛	178	96	39才
次鋒	3段	小田	剛	181	100	34才
先鋒	4段	樋口	真臣	174	105	33才

▼3位 (東海東部ブロック)



東海東部						
監督		6段 山田 英幸		身長	体重	年令
	段位	氏名				
大将	7段	石田	雅明	179	92	51才
副将	4段	岩澤	勇治	173	90	43才
中堅	4段	黒氏	憲	170	82	40才
次鋒	4段	吉田	卓実	186	85	35才
先鋒	3段	一瀬	克紘	168	90	27才

第35回日整全国柔道大会出場選手紹介



▲北海道ブロック



▲東京ブロック



▲北関東ブロック



▲北信越東部ブロック



▲中関東ブロック



▲北信越西部ブロックA



▲南関東ブロック



▲北信越西部ブロックB

第35回日整全国柔道大会出場選手紹介



▲東海東部ブロック



▲中国ブロック



▲東海西部ブロック



▲四国ブロック



▲大阪ブロック



▲九州ブロック



▲近畿ブロック

※東北ブロックは、復旧・復興のため不参加となりました。一日も早い復興をご祈念いたします。

※日整のホームページに日整全国少年柔道大会、日整全国少年形競技会、日整全国柔道大会の決勝戦動画や形の演武、写真スライドを配信中です。ぜひご覧ください。

(注)日整全国柔道大会は会員ページで配信しています。

第38回日整親善ゴルフ群馬大会

賞品は東北被災3県の特産品

東日本大震災復興支援チャリティーゴルフ

第38回日整親善ゴルフ群馬大会が、9月19日(日)、社団法人群馬県接骨師会の主管により群馬県のサンコー72カントリーにおいて開催された。本大会は『がんばろう東北! がんばろう日本!』をスローガンに賞品は大震災で被害が大きかった東北3県の特産品を用意するなど、東日本大震災復興支援チャリティーゴルフとして行われた。

全国から213名のゴルフ愛好家と40名の関係者が一堂に会して親睦を深める有意義な大会となった。心配された台風の影響もなく、爽やかな秋晴れのもと会員らは目の前に広がる雄大な景色を楽しみながらバラエティーに富んだ魅力のコースに挑んだ。

■ゴルファーの心を東北へ

本大会は、「ショートホールでグリーンにワンオンできなかった場合は、チャリティー募金をする」という規定を設けてスタートした。

当日、ショートホールでのチャリティー募金では180,500円が「寄付」され、それに群接から拠出した29,500円を加え、被災した3社団（宮城県、岩手県、福島県）へそれぞれ7万円を見舞金として贈呈した。



▲チャリティー募金する選手たち



■表彰式

表彰式は、同倶楽部において行われた。挨拶に立った萩原正日整会長は「主管県の大藤忠昭群馬県接骨師会会長をはじめ多くの方々のおかげで親睦を深める素晴らしい大会になりました。

本大会は東日本大震災復興支援チャリティー



【団体戦】

順位	都道府県	ネット
優勝	岐阜県	290.8
準優勝	茨城県	292.6
第3位	栃木県	293.4

注：ネットの合計は各都道府県登録選手4会員の合計

【個人戦】

順位	氏名	都道府県	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝	寺田好郎	岐阜県	39	39	78	10.8	67.2
準優勝	松田孝志	富山県	41	44	85	14.4	70.6
第3位	諸田徳寿	群馬県	40	38	78	7.2	70.8

【グロスの部】 グランドシニアの部（満70歳以上）

順位	氏名	都道府県	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝	松為信夫	神奈川県	43	39	82	10.8	71.2
準優勝	山口綱孝	東京都	43	43	86	9.6	76.4
第3位	櫻井弘	群馬県	45	42	87	14.4	72.6

【グロスの部】 一般の部（満70歳未満）

順位	氏名	都道府県	OUT	IN	TOTAL	HDCP	NET
優勝	和田育穂	大阪府	38	37	75	2.4	72.6
準優勝	長野靖志	茨城県	38	37	75	3.6	71.4
第3位	五明顯二	埼玉県	37	39	76	0.0	76.0

【ゲストチーム団体戦】

順位	チーム名	ネット
優勝	テイク・トーク・富国生命	220.6
準優勝	栗原、ALSOK、吉原、孝鮪	220.8
第3位	群馬県歯科医師会	224.2

注：ネットの合計は登録選手4名の合計

※詳細な成績結果、スライド写真、ダイジェスト動画は日整ホームページ（会員ページ）で配信しています。ぜひご覧ください。



◀二連覇を飾った岐阜卓チーム

ゴルフとして開催されましたが、日整も被災県に対していろいろな面で支援をしていきたいと思っています。

9月1日から日整は公益社団法人になりましたが、会員が一丸となって公益の事業を進め、国民に寄与していきたいと思っています」と感謝と意向を述べた。

続いて長年この大会に大変ご尽力された櫻井弘日整親善ゴルフ愛好会会長に、来年から同会長になる岡本和久日整総務部長より記念品が渡されると、会場からはねぎらいと感謝を込めた大きな拍手が送られた。

次に、岡本日整総務部長から来年は9月に千葉県の「紫カントリークラブ」で開催する予定であることの発表があり、多数の参加を呼びかけた。

■岐阜県が2連続V！

都道府県団体戦は、各都道府県登録選手4名のネット合計で競われ、岐阜県が昨年の初優勝に続き連覇となった。

個人戦では、参加者全員で競われ、岐阜県の寺田好郎会員がトータル78、ハンディ10.8、ネット67.2の成績で優勝し、宮城県仙台の民



▲被災地特産品を含む豪華な賞品

芸品、両開小箆箆が贈られた。

その他、各部門の成績は表の通りとなった。司会者より各受賞者とその賞品の被災地特産品が発表されると会場は大いに盛り上がり、溢れる笑みで賞品を手にしていった。

<優勝インタビュー>

個人優勝 岐阜県 寺田好郎会員



天候に恵まれ楽しくプレーができました。多くの先生方と交流をさせていただき大変有意義な大会でした。

幸運にも個人優勝と昨年に続き団体優勝もさせていただき、大変嬉しく光栄に思っております。

本大会は復興支援チャリティーゴルフとして行われましたが、被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに震災復興を心より祈念申し上げます。

—親睦を深めた前夜祭—

「がんばろう東北！がんばろう日本！」の掛け声で始まった恒例の前夜祭は、ゴルフクラブハウス内にあるホテルサンコー72、白亜の城を彷彿させる欧風ホテルの8階で開催された。

主管県の田村清専務理事と木暮昌利常任理事による流暢な司会進行で、木暮弘元副会長の開会の辞で始まった。

歓迎の挨拶に立った大藤忠昭群馬大会会長は「開催が危ぶまれた本大会は被災者・被災地の復興支援チャリティーゴルフとして行われ、協賛された賞品以外、参加賞・その他の賞品すべて被災地の特産物を取り揃えました。明日の大会が素晴らしい大会となりますよう、また一日も



◀歓迎の辞を述べる大藤群馬大会会長

早い被災者・被災地の復興支援をご祈念いたします」と述べた。

その後、来賓祝辞に佐田玄一郎衆議院議員、小淵優子衆議院議員、中村紀雄県議会議員、萩原正日整会長のお言葉をいただいた。

櫻井弘日整親善ゴルフ愛好会会長が最後となる実行委員長の挨拶を行い、次年度から岡本和久日整総務部長にバトンを引き継ぎ、愛好会会長承諾ならびに次年度開催県（千葉県）会長としての挨拶が行われた。

祝電披露の後、工藤鉄男日整副会長の乾杯で開宴し、しばし歓談の時が流れた。

頃合いを見て、アトラクションタイムに入り、前川清のそっくりさん物真似タレント、後川きよしの爆笑ものまねそっくりショーが始まり、爆笑の渦の中、日整の重鎮がバックコーラスに抜擢され、衣装とカツラをかぶせられ、壇上に上がるとさらに盛り上がった。

ショーの後半では、デュエットがあり、地元の群馬県接骨師会事務職員の小熊さんと後川きよしが気持ちよく歌い上げ、拍手喝采を浴びた。

司会者より、各県チームが詳細に紹介され、代表者が壇上で現在のチーム状態・明日への意気込みを力強く宣言



▲櫻井実行委員長



▲次年度開催県挨拶
岡本千葉県会長



▲総合司会の田村群馬県専務理事

した。その後ビンゴゲームが行われ、しばし和やかな時が流れた。

親睦を深めた前夜祭は、松岡保日整副会長の万歳三唱が行われ、深澤雅浩群馬県接骨師会副会長の閉会の辞で幕を下ろした。



▲群接事務職員の小熊さんと後川きよし氏のデュエット



▲日整役員、カツラをつけてバックコーラス



▲昨年の萩原会長ホールインワンを祝し、岡山県の名木田会員(右)より記念品が贈られた

輝ける未来への取り組み

《中国ブロック》

●● 岡山県柔道整復師会 ●●

当会では、地域支援事業参入に力を入れております。また、公益性を考え、学術研修会では一般の方も参加できるものに、そしてボランティア活動にも力を注いでいます。

【地域支援事業参入】

当会では、介護保険がスタートすると同時に会員に介護保険サービス事業に参入できるように介護保険部を立ち上げました。平成18年地域支援事業が始まる前に、各支部に市町村への交渉担当者を数名任命し、介護保険部がフォローしながら交渉に当たっています。

最初に委託契約を結んだ玉野市でのケース

〈参入の経緯〉

平成18年3月 平成19年度より始まる地域支援事業に参入できるよう、市役所へ要望書を提出する。

平成19年9月 市長及び市議会議員を通じ市の担当者と面談し、プレゼンテーションをする。

平成20年7月 玉野市と委託契約を結ぶ。

〈契約内容〉

全体の利用者が1年間27名。9名の各事業所（接・整骨院）で行うサテライト方式で、委託金額は1人5,500円（月4回で3カ月。計12回）

〈施術内容〉

- 施術時間……月～土曜日、各整骨院の診療時間内（休憩時間を含む）
- 身体測定項目……身長・体重・血圧・脈拍・握力・開眼片足立ち
- 運動内内容……上肢・下肢・体幹の機能訓練（筋力強化）バランス訓練・ストレッチなど
- 包括支援センターとの連携方法……包括支援センター担当者より利用者の情報提供を



▲地域支援事業講習会

受け担当者会議を行った。その後、毎月状況報告を行った。緊急時は電話にて対応した。

〈参入交渉の際に重視した点〉

- 交渉は当方も複数人で行った。
- 柔道整復師の機能訓練のメリットを主張する（専門家の立場で体調管理しながら、機能訓練が行える）。

〈参入交渉の際に苦労した点〉

行政はこちらから、こまめに連絡しないと動きが悪い。

〈会員の意識の変化〉

利用者が来るまでは不安を見せていた会員も、事業が始まると前向きな質問が増え、地域支援事業に対する意識が高まった。



このように、我々が地域支援事業に参入するためには、柔道整復師が行う機能訓練を、市町村長及び議員に理解していただいた上で、各部署へのトップダウンが効果があったように思われます。

その後、倉敷市平成21年7月・岡山市平成22年4月・美作市平成23年4月・総社市平成23年7月委託契約を結ぶことができました。今後、赤磐市・真庭市・津山市・笠岡市などにも交渉していく予定です。

岡山市では、センター方式で社会福祉協議会が行っているのですが、我々がいろいろな手で交渉に行きましたが、なかなか難しく、市議会議員と相談した結果、市長に陳情に行きました。岡山市議会において採択され、平成22年度より参加することができました。

【学術研修会】

夏期・冬期年2回の研修会を行っていますが、公益性を考え、一般の方も参加できる研修会を目指しています。

平成23年8月7日の夏期研修会では、午前の講演は『“七転び八起き”を目指した健康づくり～兵庫県柔道整復師会の取り組み～』と題して兵庫県柔道整復師会学術部長・根來信也先生を招いて、兵庫県がやっている介護への取り組みを学びました。

午後よりピラティス『もっとしなやかに体のケア方～負傷した兵士のリハビリのために考案



▲ピラティス講習会・夏期研修会



▲根來先生・夏期研修会

されたエクササイズ～』と題してBISI認定インストラクター・大森麻樹先生を招いて、一般の方も体操のできる服装で来られ、会員と一緒に体を動かしました。

【ボランティア】

岡山県柔道連盟が主催する柔道大会への救護班はもちろんのこと、総社吉備路マラソンをはじめ、吉備高原車いすふれあいロードレースにケアブースを開設しています。

また自治体などが主催のスポーツ大会などに会員を救護員として派遣し、外傷事故などに敏速に対応するようにしています。吉備路マラソンでは180名、ロードレースでは160名に利用者がありました。

【その他】

会報・柔整新聞においても、今後、公益性を考え、各施術所の待合室に置けるものと考えております。

(広報員 馬塩 廣志)

● ● 鳥取県柔道整復師会 ● ●

【ボランティア活動への取り組み】

本会は鳥取県柔道連盟の要請に協力し、県内で開催される柔道大会へ救護班の派遣を行っている。

〈平成22年度救護班活動状況〉

中国高校柔道大会 鳥取県予選会
高校総体柔道大会
中国高校柔道大会
国民体育大会 中国ブロック柔道大会
鳥取県勤労者柔道大会 高段者柔道大会

鳥取県青少年柔道大会
鳥取県少年柔道大会 団体の部
県民スポレク祭柔道大会
鳥取県高等学校柔道選手権大会

◇

本会は会員数19名という少数であり、救護班についても多くの競技に派遣したいのではあるが、会として受けるには人員的に無理があり、各競技の救護は各会員に任せているが、ほとんどの会員が自発的に参加している。「草の根」的な活動であるが、私自身30年近くの経緯を見



ればかなりメジャーになってきたことを感じる。

【講師派遣への取り組み】

本会は企業や関連団体が主催する安全大会や、自治体が主催する健康講座などに、講師を派遣する。

講演の冒頭などに、無資格施術（いわゆる△△整体など）との違いを明確に説明し、聴講者の理解を深めるよう務める。

【医療機関への取り組み】

本会は、各支部に相談医を設け、円滑な同意の取り付けや、画像依頼等の相談をできるようにしている。

【保険課への取り組み】

本会は、審査委員会に参加し、円滑な保険請求に当たれるようにしている。

【今後の取り組み】

当面の課題として介護事業への参入がある。
鳥取県の場合、医療機関の介護サービスが充

実している上、参入に興味を示さない会員も多い。しかし、高齢化が進む今、介護予防事業ネットワークを次の世代に引き継げるよう構築して行きたい。

【総括】

今回、取り組みについていくつかの課題を記したが、どの課題も他県では当然のように実施されているものと思う。

鳥取県の場合、以前より「接骨院・整骨院」自体極端に少なく、「柔道整復」という言葉自体、聞いたことがない人がほとんどである。

以前、日整生涯学習委員会場で「日整会員であることのメリット」についての意見交換があったが、「社団」「非社団」にこだわっているのは、社団会員だけであり、一般の方から見れば同じ柔道整復師、同じ接骨院・整骨院なのである。

柔道整復師養成校の増加で卒業生の増加の上、個人契約が認められている今、好き勝手にやっけてはモラルの低下は避けられない。

卒後研修の場の確立や、施術所乱立など、自粛・規制を求められる事項が増える今、「今が良ければ……」「儲けられるときに儲ける……」では、長い目で見れば「自分で自分の首を絞める」ことになる。

将来を見据えれば、倫理観低下の防止、数の論理での中央省庁との折衝力の強化など、柔道整復師統一のメリットは大きい。

真の「輝ける未来へ」を目指すなら、柔道整復師の統一を図るべき時期に来ているのではないだろうか。

（広報員 佐々木 浩一）

● ● 鳥根県整骨師会 ● ●

沖縄県の米軍基地、尖閣列島問題、北海道の北方領土問題、3月の東日本大震災、当県では竹島問題と各県ならではの事柄を抱える中、会員数も少なく各員一層の努力をしているところである。

大きな動きとしては、社団法人制度改正を期に今までの会の運営を見直し、改善させるべく新公益法人設立委員会を設置し、さまざまな取り組みについて話し合いが行われているところ

である。

ボランティア活動は、アスレティックテーピングを能くする会員が多く、国体、高校総体への帯同、県内の試合会場での救護ボランティアはもとより、日本体育協会公認スポーツ指導者養成講座専門科目講習会への講師派遣の依頼に対応している。中・高校での講習会への派遣要請にも応えている。

地域支援事業では、当県は老人県と言われて

久しい。これは割合が高いだけで、常に国政選挙では一票の格差報道で話題になるほど県民総数は少ない。

種々の老人サービス業が少ないパイを分け合っている現状ではあるが、ここに参入の余地を見つめることが今後の取り組みとなる。

島根県では、町の整骨院として地域に根付いていると思っていた。

最近、電話で場所、健康保険は利用できるかなどの問い合わせに何か釈然としない思いが湧

いてきている。地域住民へのアピールが足りなかったのではないか。これも今後の取り組み、課題となるだろう。

先人の育んだ島根流が一番喜ばれることと感じている。入院、入所ではなく、自宅からの通院、往診で患者家族と一緒に協力しクオリティの高い治療を提供する体制をより強化することがよりよい方法と思われる。

(広報員 金阪 博)

● ● 広島県柔道接骨師会 ● ●

【古き良き伝統を守りつつ、 新しきを創造する！】

今回、「輝ける未来への取り組み」として広島県がご紹介するのは……数年前より県単位で行っている2つの「ボランティア活動」です。

広島県として、各種行事などには県単位はもちろん支部単位、また個人単位でさまざまなボランティア活動、介護予防教室などを実施しています。

各々の会員が個人的に行っている活動とは別に団体としてやることの意義は、最近ますます重要性を帯びてきたように思います。

近年、逆風にさらされている我が業界の社会的認知、社会的地位向上を推進することにより、それが個々の会員への、また業界へのフィードバックになると信じています。

こうしたボランティア活動などには会員には大変な労力を強いることにはなるのですが、輝ける未来があると信じて広島県は、山崎健司会長を旗頭に全会員で邁進しております。

即効性があるものではないのかもしれませんが、その地道な活動が、われわれの輝ける未来へと繋がっていると信じております。

今回のボランティア活動報告は植田寿英事業部長が行います。

前期は学術副部長として、また今期からは事業部長に就任し、既存の広島県の活動にプラス・アルファを画策し、どうしたら会員のために、また業界のためになるのかと日々真剣に考えております。古き良き伝統を守りつつ、新しきを創造する。

考えは止めた時点で終わりますが、思考しつづけることにより、新たな道が開けると信じています。

輝ける未来!!を見据えて、広島県は山崎会長を先頭に今後も邁進します!!

【第5回はつかいち縦断みやじま 国際パワートライアスロン大会、 ドクターカーに帯同】

平成23年8月3日、世界遺産の宮島・厳島神社をスイムスタートし、高低差900mのコースをバイクとランで駆け抜ける『第5回はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会2011』が開催されました。

コースは広島廿日市市の宮島から吉和までを縦断する77.5km。国内4人と米ハワイの2人の招待選手を含む過去最多の528人がエントリーされ、個人の部には男女合わせ306人、1チーム3人のリレーの部は74組222人。ハワイからの招待2選手が大会前に「東日本大震災の被災者の『堅忍不拔』の精神が私たちを奮い立たせており、最大限の力を発揮しレースに臨みます」と力強くコメントを寄せていました。

過去4大会は広島支部廿日市市の木村克会員並びに前理事の高岡弘一会員のご尽力と30名程の会員の協力によりゴール地点であるクウレ吉和にて選手たちのマッサージなどのリコンテイングや応急処置的なテーピングを行い、個人的に微力ながら選手のケアに携わり、選手との会話を通じて、レースまでの調整の難しさや体調管理、ペース配分などについてレースで疲労しているのにもかかわらず快くお応えして



▲集合写真

いただき、とても有意義なまた貴重な時間を共有させていただきました。

その4大会の地道なボランティア活動が実り、大会関係者及び医師会などにも認めていただくことができ、今回、ドクターカーに医師・看護師との帯同が実現することとなりました。

まずは、柔道整復師として迅速な対応と的確な処置のためには、いかなる状況でも対処する方法として三角巾による固定に絞り、予め八つ折三角巾を数枚用意し、バイクでの転倒・あるいは転落では、どのようなケガが考えられるか自分なりにシミュレーションし、改めて身が引き締まる思いを胸に当日を迎えました。

10時の号砲の合図とともに世界遺産の宮島大鳥居をスイムスタートし、先頭者がスイム到着地点でドクターカーに乗り込み、颯爽と駆け抜けるバイク選手たちを見守りながら最終バイクの選手の最後部に位置し、救護活動の開始となりました。

標高900mまで75kmの距離を駆け上がる選手は、孤独感や苦しみにも思える懸命な姿に惜しみない地域住民の背中を押すように温かな声援や拍手は、何よりランナーたちに勇気を与え、励みや力になることに強く心を打たれました。

バイクレース中盤は林道へと進み、さらに厳しい上り坂というよりも傾斜30°の山登りをバイクで果てしなく上がっていくという想像を絶する条件を約2時間。

途中、しばらく立ち止まり給水する場面やタイムリミットで続々とリタイヤする選手も現われ、改めて日本一厳しく過酷な鉄人レースを体感しました。

今回のドクターカー救護活動内容の総括として、1名バイク走行時にふくらはぎの筋痙攣で



▲ドクターカー帯同 左が植田事業部長



▲施術

局所アイシング処置とストレッチを行う程度で、事前に準備していた三角巾を使用することもなく、柔道整復師としての能力・技術など最大限の力を発揮するような場面に遭遇しませんでした。

しかし個人的な感想として過酷なみやじまトライアスロンの全貌を見ることができ、日常診療では経験することのない緊張感を味わい、また医師とボランティア活動を通じさまざまな意見交換を行い、広島県廿日市市医師会と広島県柔道接骨師会の良好な関係が築けたことは大きな財産となり、今後のドクターカー帯同活動の基となったと確信いたしました。

最後になりますが、長年の夢でもありましたドクターカー帯同という貴重な機会を与えてくださった広島支部廿日市市・木村克会員をはじめ、参加された会員各位のご理解をいただいたことを深く感謝します。

このような公益事業の一環としてのボランティア活動は、一般市民に接骨院アピールしていくために必要なことであり、今後もより充実したボランティア事業の確立のために会員一人一人の対外的な奉仕の心とその意識と行動力を自

覚していただくことが、我々の明るい未来への懸け橋になると思っております。

【第30回ひろしま国際平和マラソン ボランティア活動】

3師会合同（広島県柔道接骨師会・広島県 鍼灸マッサージ師会・広島県鍼灸師会）

平成22年11月3日(祝)、広島市西区の観音地区・商工センター一帯で開催され、全国からエントリーした6歳～86歳の老若男女約12061人が参加しました。

1キロのキッズコース、5キロのビギナーコース、10キロのチャレンジコース、5キロの車椅子コースの順にスタートし、家族と一緒に走るキッズコースでは、育児休暇の件で時の人となった湯崎県知事と広島東洋カープの苦勞人、石井琢郎選手がゲスト参加しました。

元五輪マラソン日本代表の尾方剛選手（中国電力）と市橋有里選手（アディダス）やデオデオ女子陸上部競技部、トップス広島の選手たちが各コースに加わり、参加者を励ましながら大会を盛り上げていました。

今回30回の節目となった、ひろしま国際平和マラソンの第1回は、1981年3月29日に開催され、広島アジア大会の招致成功と市民の交流促進が目的で30キロ、10キロ、5キロを3800人が参加。市民マラソンとしては青海マラソンに次ぐ規模で、5回大会には1万人を突破しました。

30キロ部門では有名選手も出場し、既に名ランナーとして活躍していた瀬古利彦や10回大会の開会式には、その2年前のソウル五輪女子陸上で3個の金メダルを獲得した“世界一速い女性”フロレンス・ジョイナーさん（98年死亡）が駆けつけ、平和記念公園の平和の灯からの採火した聖火をともし、大会の歴史に大きな一ページを刻まれました。

94年のアジア大会後より徐々にファミリーマラソンの色合いを強め、仮装賞を設けるなど娯楽の要素も加わり、また近年のジョギングブームも伴い、常に1万人を超える参加者が盛り上げるマラソン大会として定着しています。

以上、『ひろしま国際平和マラソン』の歴史を簡単にご紹介させていただきました。



▲ひろしま平和マラソン



▲平和マラソンのボランティア

さて、このような歴史と伝統のある中国地方最大級の市民マラソン『ひろしま国際平和マラソン』に冒頭の3師会が初めてボランティア参加した経緯は、第29回のサブグラウンド内で総合学園ヒューマンアカデミー広島校によるマッサージ奉仕活動の実施について広島県鍼灸マッサージ師会竹辺会長が開催される前から大会事務局へ指摘していた旨を説明いたします。



ご存知のように医事法規に関する法規定による「何人も、国家資格を有しない者による医療行為は行ってはならない」又は「施術を行うについて、施術の衛生と安全のため法に定めた規定にそぐものであることを所定の保健所に許可申請をしなければならない」という法規上の規定があります。

当該事務局側とヒューマンアカデミー側は「医療行為であるマッサージをするのではなく、簡単なボディケアなどをするにとどめる」との認識で、実施については問題ないと判断。その後、ヒューマンアカデミー側と中国四国厚生局とが直接やり取りをし、「マラソン前後のストレッチなどのボディケアであるので、実施しても問題ない」とのことで、中国四国厚生局の指

導のもと、医療行為に踏み込んだものではなかったとの返答でありました。

しかし、施術の一環となれば、無資格の者が行うことは違法な行為に当たるのではないかと？ 有資格者が目をつむっていてもよいのか？ さまざまな想いの中、地域医療福祉に貢献している3団体（師会）と厚生労働大臣免許取得指定養成学校のIGL医療・朝日医療両専門学校2校との協議により、ボランティア活動としてイベント参加者の選手に少しでもお役に立ちたいとの一致した意見で、各団体一丸となり、実り多き活動を趣旨とし進めて参りました。

大会本部より各師会1テントを準備していただき、テント内にベッド4台の配置、救護用具セッティングを行いました。

全体ミーティングでは、ボランティア活動の趣旨、経緯を竹辺先生より全参加者への説明。その後、個々のテントで担当による詳細へ進行し、我々柔整の活動体制はあくまでも接骨業務範囲内でランナーの主訴を重視し、鍼・灸は鍼灸師会へ、マッサージはマッサージ師会へ移動するよう他師会と連携し、また各自先生方に対し極力後日に疲れを残されない程度で、交代し合いながら活動するようお願いした次第です。

9時過ぎ除々に選手や一般市民（選手の家族なのか、単にサブグラウンドに遊びに来た人なのか把握できない）が会場内に溢れ出し、気温も上昇と同時に気持ちも高ぶり始めた頃に1人、2人……気が付けばベッドは埋まり、即席待合のパイプ椅子を見渡すと長蛇の列です。

手際よい12人の先生方の協力のもと、走行前のストレッチやテーピングを素早くかつ正確に、また状況により親切丁寧に適切なアドバイスを踏まえて、スタートに備えていただけようお願いしました。テント内は息を付く暇もないほどの熱気に包まれていました。

それぞれのスタート時間前にはグラウンド内も閑散となり、テント内も落ち着いてきたため、選手ゴール後に備えて、しばらくのブレイクタイム、継いで昼食。約30分後、それぞれ走り終えたアスリートたちが続々と訪れ、軽擦を含むコンディショニングを開始。

アイシングが必要な状況や歩行不可状態の重篤な膝疾患、またふだんあまり運動に無縁な方が当日走っての肉離れ、足首を捻挫しているに

もかかわらず医療機関へ受診せず痛みを堪えながらの10*走など、一人一人の訴えはさまざまでしたが、走るための準備や心構えが若干欠けているように感じました。

また選手ではありませんが、8歳の子供が会場内のロープに引っかかり左手を突いたらしく、触診上、橈骨骨端線離開の疑いがあり、広田会員がアルフェンスによる固定を施し、後日、かかり付けの整形へ受診していただく旨を母親に指示しました。

14時半の撤収までに12人先生方のお陰で延べ112人の選手たちへ手助けができて心地よい汗と達成感を味わいました。

限られたスペース中で終始盛況であった理由として、幸いテント設置場所が選手、一般者の出入り口の近くであったこととランナーの受付が比較的隣接していたことや試行錯誤しながら作成した広島県柔道接骨師会・無料ボランティア・コンディショニング計3枚の横断幕が大きな効果を上げました。

また選手受診後には広島県オリジナルの接骨院施術内容のお知らせ（「接骨院ご存じですか！」）と社団全施術者会員の名簿をお渡しし、少しでも接骨院に対する意識を高めていただいたと確信しました。

今回、『ひろしま国際平和マラソン』のボランティア活動で純粹に感じたことは、12,000人超え規模の不特定多数の市民に対し、接骨院をアピールができ大変有益ではありましたが、現実的には接骨院の存在や施術内容など、まだまだ地域・市民・県民に理解されていない状況下にあると私自身のみならず参加した先生方も口を揃えておりました。

対外的な啓蒙活動は労力が必要とは思いますが、地道なプロセスを先生方一人一人の協力により大きな財産を作り上げて後世へと繋がるようお願いしています。

また、今年も昨年同様、3師会合同でのボランティア参加が決まっており、現在（9月30日現在）準備に奔走中です。この号が発刊される際には、『第31回ひろしま国際平和マラソン』が前年にも増す盛況で終了していることをあることを望みながら……「第31回大会」も次号ブロック通信「広島県だより」で詳細をご紹介します。（広報員 宮迫 太一）

柔整サロン

「柔道整復師はもっと 評価されている！」

山口県出身プロレスラー・長州力選手に聞く!!!

聞き手・編集・写真・校正

中国ブロック広報部長・

(社)広島県柔道接骨師会広報部長 宮迫 太一

掟破りインタビュー「長州力」——今回の中国ブロック担当の「柔整サロン」は……皆さん大変よくご存じのプロレスラー・長州力選手です。

実際お会いした長州選手の身体のツヤとハリはすばらしいものでした。それは取材当日も、取材の寸前まで道場で懸命にトレーニングされている努力の賜物なのでしょう。その長州選手に今回はトレーニングについて、元気の秘訣、体調管理、ケガのケアなどについて、いろいろとおうかがいしてみました。インタビュアーを務めさせていただくのは、広島柔道接骨師会広報部長の熱狂的な長州ファンの宮迫太一です。どうぞ最後までお付き合い下さい。



〈永遠の革命戦士長州力プロフィール〉

インタビューを読んでいただく前に長州力選手の年譜を簡単に紹介します。以後、敬称は略させていただきます。ご了承ください。年代も詳しく書きますので、ぜひご自身の年齢に照らし合わせて思い出しながら読んでく

ださると幸いです。

山口県徳山市（現在の周南市）に生まれた長州力は腕白盛りの子供時代を経て柔道に出会い、その後、レスリングのおもしろさに目覚め、山口県桜ヶ丘高校に入学後から本格的にレスリングを開始します。

その才能はすぐに開花し、専修大学時代の1972年にはミュンヘンオリンピックに出場。翌1973年にアントニオ猪木率いる新日本プロレスへ入門。1974年8月、東京・日大講堂におけるエル・グレコ戦でデビューしました。

このデビュー戦で長州さんは初勝利を挙げるわけですが、そのときの決め技が皆さんが子供時代に友達同士でよく掛け合ったと思われる「サソリ固め」でした。その後、メキシコ遠征中にUWA世界ヘビー級王座を獲得。

1982年に海外から帰国後、終生のライバル藤波辰巳との抗争劇がスタートします。

新日本プロレスへ入門してからおよそ10年の31歳。どちらかというど味な中堅レスラーの一人になっていた長州力が、同世代のス

ター藤波辰巳へ有名な「かませ犬」発言を行って大ブレイクします。当時はプロレス中継がテレビ朝日で金曜日のゴールデンタイムに中継されていたこともあり、その後、日本中に空前の“革命戦士”長州力ブームを巻き起こし、タイガーマスクとともにプロレス第3次黄金時代を築きました。

1984年、今では「気合だー!!」でよく知られるアニマル浜口らとともにジャパンプロレスを立ち上げ、主戦場をジャイアント馬場率いる全日本プロレスへと移し、日本テレビ「全日本プロレス中継」をゴールデンタイムへと復活させる原動力となるなど、日本のプロレスマット界の自他ともに認める主役として躍り出ます。

1987年には古巣である新日本プロレスに電撃復帰。アントニオ猪木が第一線から退いた後の新日本プロレスの現場監督として1990年代の新日本プロレス隆盛の時代を演出。1995年には新日本プロレスとUWFインターとの全面对抗戦を企画し、当時の東京ドームの観客動員数記録を打ち立てました。

このとき長州力は安生洋二と対戦。その際の名セリフが「キレてないですよ!」は有名です。

1998年1月4日、47歳の時に東京ドームで現役生活にピリオド。しかし、2000年7月に会社の興行上の起爆剤となってほしいとの要請にも応え、横浜アリーナにおいて大仁田厚との「掟破り」の有刺鉄線電流爆破マッチを敢行し2年半ぶりに現役復帰。再び驚異的な観客動員数を記録しました。

その後は新日本マットを主戦場とするかわら、全日本プロレス、リアルジャパンプロレス、DRADITION、DRAGON GATEなど主要団体に精力的に参戦、2006年より自ら主宰するリキプロ主催興行「LOCK UP」を始動。

2010年1月より藤波辰巳、初代タイガーマスクらと共に「LEGEND THE PRO-WRESTLING」をスタートさせるなど今でもプロレス界の「ど真ん中」に君臨しています。

「パワー・ホール」の入場曲に乗って…

大変お待たせしました。ここから長州力選手のインタビューです。

インタビューは新日本プロレスの野毛道場で行いました。正確には「野毛道場の前の路上」でしたが……。

というのも、取材の約束時間前に長州選手は道場でトレーニングもやっておられて、もう汗だくの状態。加えて当日は8月の真っ只中で気温も30度超えの真夏日。そこへ長州選手が約束の時間きっかりにパンツ一丁の汗だく状態で登場。

(「ちょっと待って」としばし水浴び)

長州 フー。よーし、ここでやろう。道場は汗で水浸しになってて入れないよ。

宮迫 ハッ、ハイ。どこでも結構です。

(ということで道場前の路上で日差しを受けながらインタビューがスタート)

■体型は高校時代から変わらない

宮迫 はじめまして。今日はお忙しい中ありがとうございます。長州さん、身体、張りがあって年齢を経ても体型が全然変わらないですね。他のレスラーなんかは年齢を経て余分な肉がついたりしているのも見られますけど。

長州 ああ、変わらないですよ。体重はまったく変わらないですね。年とともに体型が変化する選手はいるけど、僕は変わってませんね。身体を動かすのが好きだし、トレーニングはずっとしてるからね。特に夏場は好きです。暑いとすぐに身体が動く。冬場は少ししんどいですね。

ボクはもともと田舎の子供なんです。田舎の子供といっても今の「田舎の子供」とはまた違うだろうけど、勉強は嫌いだし、することといったら遊ぶことだった。遊びの中で体力がついていったんですよね。

宮迫 体格的には昔、アマチュアレスリングをやっていた学生時代と比べたらどうなんでしょう？

長州 体格は高校時代から変わらないね。体重が増えただけであって、この世界に入ったら、体重増加は仕方ない。この世界に入ってから、体重が20キロくらいは増えたかな。

宮迫 プロフィールでは身長が184センチで体重が120kgとなっていました。

長州 そうそう、僕は国内でも、そんなに大きな選手ではないですからね。背も大きくないし、180センチくらいだし、ドラム缶みたいに横に広がってんだよね（笑）。10円玉だよ（笑）。

■押しつぶされて血痰

宮迫 プロレス界ではやっぱり大きい身体のアンドレ・ザ・ジャイアントやハルク・ホーガンなど規格外の体格の人がいます。そういう方々と比べれば大変ですよ、相手をするのは……体重がかかって血痰が出たりとかもあったとか。

長州 ありましたね。最初は驚きましたよ。

宮迫 それは身体がぶつかりあったり、押されることによって？

長州 そうなんです。圧迫で血痰が出るんでしょうね。技を出すときにすべての体重がかかるから。体重を乗つけられると胸が苦しくてね。

宮迫 体格の差による圧迫で血痰が出たりするわけですから、どうしてもトレーニングというのは欠かせないんでしょうね。今のトレーニングメニューはどういったものをおられるのでしょうか？

長州 プッシュアップやウエイト（トレーニング）が主だね。あとは走ったり。心拍数をあげるトレーニングだったり。

宮迫 試合前などの練習でリングの周りを走っている写真などもよく拝見します。

長州 ランニングってのは結構します。走ることで心拍が上げられる。ジムの中を15分～20分くらいは走りますね。

宮迫 プロレスの技術的な練習はどうでしょう？

長州 今はもうあまり若手に交じってすることはないですね。若い頃のようにはやらない

ですね。自分が作ったメニューで、若い頃の量の「6から7」くらいにはなっていますが、1時間から2時間半くらいでやっています。トレーニング方法というのはプロレスに入ってから、ほとんど変わってないですね。

■ベンチプレスは今は130kg

宮迫 ちなみに現在ベンチプレスはどれくらい上げられているんでしょうか？

長州 130キロくらいですかね。それ以上を上げることもできるんですが、あまりそれ以上やると、違和感が出てきますね。筋肉が動くというか、切れそうになりますね。あまり無理しすぎると。冷やしたりはしますが、何日間かは痛いですね。これは筋肉が切れてるのかな？と。そういう部分で若い時よりきつい部分ってのはありますよね、当然。

宮迫 肉体的な衰えというのは、私たち一般人だったら「40歳を過ぎたら」とか言って代謝が悪くなったりとか言いますが……。

長州（強い口調で）それは、みんな、自分で決めつけてるでしょ！ 医学的データはあるのかもしれないけど、決して何歳まででどうか、決めつけることはできないですよ。身体を動かし続けていれば、結構できるんじゃないですかね。

簡単に衰えたとか言わないほうがいいよね。ウォーキングでもジョギングでも水泳でもやれるだけの環境があるわけだしね。昔はやりたいと思っても、できなかったんだから。

ただ、今は身体を動かし続けていますが、これをいったんやめてしまったりすると、しんどいとは思いますがね。

宮迫 長州さんはよく練習をされるほうですよ？

長州 そうでもないですよ、若い奴らと比べると。でも、時間があれば、結構練習、トレーニングはしてますね。

（たいていの質問には即答してくれましたが、ときに考えこむようにするときも——）

宮迫 今現在の体調はいかがですか？

長州 いいですね。夏場ということもありま

すが、体調はいいです。どうしても練習、トレーニングができないと、気持ち悪いとか、苦しいとか、体調が崩れちゃうんですよ。1週間いろいろなことでトレーニングができないこととかがあると、しんどいですよ。昔から継続してトレーニングをしているからか、止まっちゃうと、身体の兆候がね。筋肉痛でよく痛い痛いとかいうでしょ？ 僕なんかは、そういう状態だと「痛い痛い」といいながらも、身体は喜んでいて、そういう感覚ですね。

だから、継続してトレーニングする人は、身体のことをわかってくる。自分の身体は自分がよくわかりますよね。

■現役復帰とアキレス腱断裂

宮迫 1998年の1月に現役を一度退いて2年半くらいブランクがあって復帰されました。引退の前とそのあとでは、身体に変化はありましたか？

長州 あのと、2年半とか空けてました？

宮迫 はい。

長州 でも、ブランクとか、リングは離れていますけど、会場に行って、選手と帯同して、一緒に動いていましたから。なにもしない状況で復帰したわけではないですから、そんなに違和感とか、そういうものはないですね。

宮迫 となると、大学卒業後にプロレスに入ってとか、その前の専修大学レスリング部に入ってからかれこれ40年近くずっと身体を動かしてきてことになりませんか？ 42歳のときにアキレス腱を切られていますよね？

長州 アキレス腱はトレーニングで防ぐというものではないのかなと思います。ストレッチ、柔軟も結構していますけどね。でも、やっぱりやっちゃうんですよね。

宮迫 アキレス腱断裂が今までで一番大きなケガになるのでしょうか？



▲道場前の路上で日差しを受けながらインタビュー

長州 そうですね、やはりアキレス腱ですかね。

宮迫 それはやっぱり使い痛みとかが原因ですか？

長州 どうなんですかね。病院の先生なんかはそう言ったりもしますが。わかんないですね。

宮迫 アキレス腱断裂後も、半年ほどで復帰されていますが。驚異的な回復力ですよ、半年というのは。

長州 リハビリはしましたよ。普通の人よりは、やっていますよ。温泉に行ったり、マッサージをしてもらったり、リハビリに関しては、集中してはやりましたね。半年が早いとか遅いとかは、自分ではわかりません。

宮迫 マッサージは誰が？

長州 選手にしてもらいました。最初は歩行訓練、そして、ジョギング、ストレッチ。柔軟して、マッサージをもらうという感じでした。

宮迫 アキレス腱断裂後の怖さとかいうのはやはり感じられましたか？

長州 それはありますね。同じところを何回もやる人がいますからね。同じところだけじゃなく、反対側のアキレス腱は大丈夫かなということもありましたしね。なるべくいろいろなことを考えないようにしてリングには上がりましたけど。

でも、手術してくれた先生が「頑丈に縫っておいたから大丈夫だよ」と言ってくれましたしね (笑)。

宮迫 トレーニングには持久力系のものと瞬発力系のものの違いがあると思うのですが、それは分けて考えられているのでしょうか？

長州 プロレスの基本のようなことを積み重ねてやっている感じですかね。ロープワークをやったり、受身やったり、走ったり、筋トレ。もう基本の繰り返しですよ。それを若い奴がガーとやってるのを見ると「クソッ！」と思うことはありますけどね (笑)。

(「ちょっと水道の水、出して」と若い人と言って再び豪快に水浴び)

■太陽が好き？

宮迫 通常、真夏日で外の場合、日陰に入ろうと思うんですが、長州さんは太陽の傾きに合わせて日なたに、日なたへ、ちょっとずつ椅子を動かして行っていますね (大爆笑)。

長州 太陽が好きなんですよ (笑)。

宮迫 最近では試合の間隔が空くこともあるようですが、体調管理などに問題はありますか？

長州 試合勘の難しさはありますね。シリーズに入って何試合か継続してやっているほうが、調子がいいですね。安心感がありますよね。

宮迫 最近サイパンキャンプは行かれていますか？

長州 今年はいろんな状況が整って行かなくてもいいようなことになっていますけどね。

宮迫 サイパンでのトレーニングメニューは国内のトレーニングと一緒ですか？

長州 しているトレーニングメニューは変わらないですね。サイパンにはリングがないということだけで、あとのトレーニングメニューは変わらないですね。サイパンに行かなければいけない状況 (気候など) になれば行きますし、行かなくてもいい気候状況だと行かなくても済みますが。

宮迫 今は大丈夫ですね？ 真夏日ですし。

長州 フフ……体調が悪いときはサイパンに行く。いいときではなく、悪いときに行く。まあ、冬場に行くことが多いですね。

■レスリング誕生の地

宮迫 話は全然変わりますが、長州さんのご出身の山口県の柳井にあるレスリングの齋藤道場ですが……。

長州 中学のときに遊びに行ったことがありますよ。遊んだというか触れたというか。ちびっ子レスリングの発祥地ですからね。レスリングのおもしろさを知ったところですよ。すごい選手がたくさん出ていますよね。

宮迫 齋藤道場の創設者の方がしばらく前にお亡くなりになって……。

長州 ああ、亡くなられたんですか……。レスリングのお手本ですよ。建屋の2階に、道場があってね。そのまた上の天井裏で、寝るところがあったんですよ (笑)。それも、もともとは「遊び」で始まっているんですよ。まっ、そこから育った人たちは、高校、大学と活躍している。高校生クラスでは、ほとんどチャンピオンになってるんじゃないですか。

(注) 山口県にて誕生した少年レスリング

わが国で初めて少年たちにレスリングを指導したのは、山口県柳井市の齋藤道場の創設者・齋藤憲氏。齋藤氏は、まだレスリング自体が世間でもあまり認知されていない昭和30年代前半、柳井市姫田の地に道場を立ち上げ、少年レスラーの育成に全力を傾けた。齋藤憲氏は平成19年7月13日に享年89歳をもってご逝去されました。

■厳しいけど苦しくはない!?

宮迫 長州さんは山口県桜ヶ丘高校ご出身ですが、レスリングの場合は、みなさん、桜ヶ丘高校に行くのですか？

長州 いや、そういうわけではないですよ。柳井だったら柳井の高校もありますしね。そっちに行く選手もいますからね。

宮迫 中学から高校、高校から大学と、徐々

に厳しい世界に突入するわけですが、その厳しさに耐えられるのはなぜなのでしょう？

長州 それはよく聞かれるけど……経験したことがないと、言ったところで、よくわからないだろうから……（笑）。苦しいと思ったことはない。厳しさはあったけど、それを苦しいと思ったことはない。苦しきとは違えますよね。

宮迫 う～ん、厳しいと思ったことがないということですか？（笑）

長州 いやいや、厳しいと思ったことはあるけど、苦しいと思ったことはないな……。

■今どきの若いものは……

宮迫 今の若い世代は、苦しさに耐えられないという面なんかが見られると言われたりもしますが……。

長州 あまり「若い世代」と言わないほうがいいですよ！ やられちゃいますよ!!!（大爆笑）

宮迫 やられちゃいますか！ ヤンチャな若い選手が入門してきて練習とかしたら、必ず「ゲッ！」と思うとか、臆するとか、そういうことがあるというお話を聞いたことがあるのですが？

長州 臆するというか……それはわかんないけど、でも、そういう若い人たち、僕が知ってる限りでは、ほとんどの人間が練習したら間違いなく変わりますね。

宮迫 やっぱり変わりますか？

長州 変わりますよ。なにか見出すというか、なにかを見つけ出そうとしてますよ。それは学校の教育にはないものですから。

宮迫 ないものですよ、それは。

長州 だから、学校の先生が「ヤンチャで」とか言うけど、僕からしたら、どうしてこんないい奴が、おとなしい奴がヤンチャとか言われてるのかな……と思いますよね。

僕なんかは、ヤンチャしたことがないんですよ。したくてもできなかったというか……クラブの指導者の先生が滅茶苦茶怖くて厳しくて、ちょっとでも噂が先生の耳に入ったら、すぐに部室に呼ばれてバシバシやられて……。

宮迫 今は、なかなかそういう教育というか、そういうことができなくてなっていますからね。

長州 まあ、私には何が良くて、何が悪いかなんてはわかりませんね（笑）。でも、若い奴は、みんなおもしろくて、みんなイイ奴で、みんな頑張ってると思いますね。

■ふだんの身体のケア

宮迫 まだまだ体力的には長州さん自身は問題がないと？

長州 いや、わかんないですよ。自分が気持ちよく動いているときは、身体を動かしていききたいというのはありますよね。いろいろと問題が出てくれば、きちんとケアをしながら、やっていきたい。

宮迫 先ほど話に出ましたが、ふだん若手の選手にマッサージをしてもらったりということは日常的にあると思いますが、治療という意味で何かやっていらっしゃることはありますか？

長州 整骨院に行ってますよ。整骨院の先生は僕の身体を熟知してるから。だから、整骨の治療を受けていますね。整骨の治療は僕の身体には合ってる。今までいろいろな治療を受けましたが、やはり整骨院の治療が僕には一番合っていますね。今は、股関節の治療をしてもらっています。

■柔道整復師はもっと評価されてよい

宮迫 接骨院、整骨院に関して、何か思いはありますか？

長州 プロレスだけに限らないと思いますが、アスリートは結構助けられていると思いますよ。そういう柔道整復師、有能な柔道整復師がたくさん増えることによって、アスリートが助けられると思います。

アスリートは自分の力だけではなかなかチャンピオンにはなれないですからね。

そういう柔道整復師のような人たちが、もっともっと評価されるようにならないといけませんよね。

宮迫 私たちも、陰ながらではありますが、そういうサポートをしっかりとしていければと思っています。

長州 私の知り合いでも何人か柔道整復師の業界で頑張っている人たちがいるんだけど、試験が難しいらしいね。とにかく頑張れ！とハッパをかけてるけど。そういう人たちが頑張らないとね。

柔道整復師のような人たちの力がないと、アスリートの活躍も、オリンピックでのメダル獲得もありえないでしょうし、プロレスなどの激しいスポーツも成り立たないと思いますよ。うん、柔道整復師のような人たちの力がないと、メダルなどには、(断言する口調で)「間違いなく近づけない！ 及ばないでしょうね」

宮迫 そのお考えでいうと、長州さんが1972年にオリンピックに出られたときと比べたら、今の環境はいいですよ？

長州 それは間違いなくそうだろうね。今は、素晴らしいと思いますよ。すばらしい環境が整っているから、逆に選手は酷くなっているのかもしれないですね。

ただ選手の身体能力は昔に比べて間違いなくあがってますからね。昔の星飛雄馬のような「根性の時代」は終わってますから。だからオリンピック委員会は柔道整復師などを含めて環境を整えるための予算をどんどん出すくらいでやってほしいよね(笑)。

宮迫 そういうところに力を入れれば、選手の身体能力が上がってきている分、選手のケアとかも万全になってオリンピックなどでもさらに良い成績が期待できますよね。

宮迫 まだまだ、お聞きしたいことはありますが時間の都合もございますので、このあたりでインタビューは終了させていただきます。

長州さん、今日は大変お忙しいところ、ありがとうございました。長州さんに柔道整復師ががんばれ！とお墨付きをいただき、大変勇気づけられました。これから、業界としても、しっかりとアスリートのサポートもしていきたいと思っています。長州さんも、まだまだ現役として、プロレス界に風を起こし続け

てください。応援しています。本日は本当にありがとうございました。

■プレイバック長州力

【名ゼリフ劇場】

「オレはかませ犬じゃない！」

かませ犬とは闘犬において使用される用語で、若い犬や試合前の犬に噛ませることで、闘志や自信をつけるために存在する犬のこと。かませ犬の多くは老犬で、噛まれてもじっと動かず、中にはそのまま死んでしまう犬もあることから、主人公を引き立たせるために存在する「引き立て役」という意味で使われます。

メキシコで当時実力 No.1 のエル・カネックを破り、UWA 世界ヘビー級王座を獲得したのち帰国した長州力は、1982年10月8日、後楽園ホールにおいて、当時、新日本プロレスのエース候補、つまり主人公だった藤波辰巳に対しエル・カネックを破り、UWA 世界ヘビー級王座を奪取し凱旋してきたオレが「なんで入場の際に藤波の前を歩かなきゃいけないんだ！ なぜオレがおまえの前に名前をコールされなきゃいけないんだ！」と団体内の序列に異を唱え、当時は団体内で絶対だった序列を否定し、反旗を翻したほとぼしる熱情。そして矢は放たれた。

「藤波！ 俺はお前の噛ませ犬じゃないぞ！ 何でオレがお前の下なんだ！ 俺とお前とどこが違う。お前はチャンスを与えられただけだ。勝負しろ、勝負してやる、お前をぶっ倒してやる！」

当時のプロレス業界では掟破りの下剋上宣言。この因縁の長州と藤波の二人の闘いは1980年代に名勝負数え唄といわれ、現在に至るまで語り継がれています。

当時を振り返って長州は週刊プレイボーイ誌上で「アマチュアでは1年生だろうが強ければレギュラーになる。でも、プロレスの世界ではそれがなかなか通用しないっていうジレンマがあったので発作的に出

た」とコメント。

ちなみに、この「かませ犬」発言をけし
かけたのはアントニオ猪木であったことも
長州は告白している。

「キレてないですよ！」

1995年10月9日、この日、長州力は東京
ドームにおいて高田延彦率いる UWF イン
ターナショナルとの団体対抗戦で安生洋二
と対戦。長州は安生を4分5秒、サソリ固
めで下したあとのインタビューで記者から
の「長州さん、キレたんですか？」の質問
に対し、「キレてないよ。……安生もキラ
したかったんじゃないか。勇気ねえな。でも
キラさない限りは勝てないよな、たぶん。
オレの勝負はそっからだから」とコメント。

このときの発言から派生した「キレてな
いですよ！」「オレをキレさせたらたいし
たもんですよ！」はタレントのモノマネで
も多く扱われ、のちにTシャツにもなっ
て爆発的な売上を記録しました。

ちなみにこの日の東京ドームには観衆

67,000人が集まる大ヒット興行となりまし
た。

*知らない方はすぐにクリック。

[キレてないですよ](#) [検索](#)

[長州力 安生洋二](#) [検索](#)

〈先着順で3名さまに長州力さんのサイン色
紙をプレゼント〉

インタビューが終わってから長州力さんに
サインを書いていただきました。この記事を
読んで下さった皆さんのうち、ご応募のあ
った先着3名様にプレゼントさせていただきます。
この色紙とインタビュー中のベストショ
ットの生写真をお付けしてお届けします。

■プレゼントご応募のあて先は(社)広島県柔道
接骨師会にメールにてお申し込みください。

(e-mail : hiroju@mocha.ocn.ne.jp)

メールの件名に「長州力サイン希望」と明
記の上、所属団体、氏名、連絡先をご記入く
ださい。なお、先着順となりますので早いも
の勝ちです。当選は発送をもって代えさせて
いただきますのでご了承くださいませ。

◆次号原稿締切日は11月30日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

最近、パソコンで作成された原稿が多くなっています。しかしながらせっかく入力された
データでも、印刷された用紙だけでは、もう一度入力しなければならないのが現状です。

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールで添付送付さ
れるか、または原稿にフロッピーやCDを添付してお送り下さい。

作業効率向上、さらには編集会議の経費削減にもつながりますので、ぜひご協力ください。
なおフロッピーやCDは返却しませんのでご了承ください。

★編集会議の結果、投稿等で未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」
の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

宛先：“日整広報”<kouhou@shadan-nissei.or.jp>

日整広報発行日と原稿〆切

※原稿の〆切厳守をお願いします。(広報部)

号 数	212号	213号	214号	215号	216号	217号
原稿〆切	11月30日	平成24年 1月31日	3月31日	5月31日	7月31日	9月30日
発 行	平成24年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日	11月20日

私の夢

挑戦！



朝日医療専門学校 広島校

賀美 拓哉

私が中学生の時、部活動をしていく中でスポーツトレーナーという職業に興味を持ち、調べる中で『柔道整復師』という資格があることを知りました。

高校・大学と工業科に進学したのですが、自分のやりたいこととは違うのではないかと考えるようになっていきました。

そんな折、父が「接骨院をしている友人と一度話してみるか」と言われて、話を聞いたときに『柔道整復師』の資格で接骨院をしていると知り、中学生のときのことを思い出し、忘れていた自分の「夢」に挑戦したいと強く思い、『柔道整復師』を目指すことにしました。

◇
学校に入学してからは、授業以外のところで、ラグビー、柔道、サッカー、マラソンなどの救護活動に助手として参加をし、実際に外傷を多く見ることができ、救護の知識を得るために部活動でテーピングやテスト法などの事前準備をしながら勉強しています。

その中でも、強く印象にあるのは、鎖骨骨折・

コーレス骨折・肩鎖関節脱臼・顎関節脱臼といった授業で習う外傷を実際に見る機会があり、鎖骨骨折では教科書でイメージしている定型的転位も実際見るとイメージ以上に近位に見えたり、逆に、疼痛緩和肢位はイメージどおりであったりと自分にとってすぐ意味のあるものとなりました。

◇
このことを通して、自分なりに考えることがありました。

問診・視診・触診・テスト法などを行う際にはどこだけ正確に行えるか。また、テスト法では行うことの危険性についてです。

それらを理解して行うには、最新の知識、症状を正確に知ること、患者さん一人一人に対して適切な処置を行えるのではないかと考えるうちに、自分が『柔道整復師』として「やりたいこと」は、外傷や痛みに対してや、リハビリ、また、一般競技者や中学生・高校生に対して競技能力向上のための運動指導。

また、高齢者の方には、ケガ予防のための運

動指導などを行っていききたいと思うようになりました。

しかし、卒業生や他の柔道整復師の先生とお話ししていく中で、今現在の自分が目標に対して知識、技術、経験の乏しさを痛感しました。

けれども、目標までの道のりは始まったばかりであり、この現実を知る前である今、この事実を知ることができたのは、自分にとってはとても大きなことでした。

私は、この目標を実現するためには、それがたとえ違う分野や、難しいとされていることであっても、勉強・挑戦していきます。

そのことで患者さんのためになるのであれば、勉強・挑戦することは『柔道整復師』として、当然のことなのではないかと考えました。

このことが私の生きがいであり地域貢献で、『夢』だと考えます。

私は今、学生なのでこのような目標を語れるのだと思います。現実はとても厳しいと言われるというのには間違いありません。しかし、学生だからこそ自分の目標を大きく持ちたいと考えました。

しかし、私の「夢」を現実とするには、その第一歩である国家試験を突破しなければいけません。私の「夢」には暇な時はありそうにないです。

私たち柔道整復師は

健康づくり、防災・救護、スポーツボランティア、
未来を担う子供を育てる柔道大会、介護など

全国各地で活躍しています。

●—公開健康講座 & 講習会—●

新潟県

佐渡市民公開講座

8月5日(金)佐渡市の「アミューズメント佐渡」を会場にして、『元気・はつらつ!すこやか健康講座』が本会の主催で開催されました。

演題は「足・腰丈夫で、ニコニコ100歳!」と題して、金沢大学付属病院病院長 金沢大学整形外科名誉教授富田勝郎先生に講演していただきました。

富田先生には、先に行われた第33回社団法人日本柔道整復師会北信越学会新潟大会において、

県民公開講座で講演していただいております、その際に本会の阿部会長のたつてのお願いを富田先生から快諾していただき今回の市民講座が実現した次第です。

当日は、平日にもかかわらず75名の参加者があり熱心に講演に耳を傾けました。

講演の内容として「ニコニコ100歳!」まで生きるには3つのポイントがあるとお話されました。

- 1つ目は生きる目標を持つこと

100歳の自分をイメージして気構えをしっかりと保つことが必要だそうです。

- 2つ目は、日々の運動習慣を実行すること

美しい姿勢を保つには、背筋と腹筋を伸ばし足をしっかりと伸ばして動くことが必要だそうです。スクワットで腹筋や下半身の筋肉を鍛えることが大事。

笑顔(にこにこ)で運動すると免疫細胞(NK細胞)が活性化し、免疫力が高まる。

- 3つ目は日進月歩の医学の発達が見込まれること
高度先進医療の発達により今まで無理だと

佐渡市民の皆様へ!!

元気・はつらつ! すこやか健康講座

日時 8月5日(金)
午後6時 開場
午後9時30分 閉演 入場無料

会場 アミューズメント佐渡 (小ホール)

講師 富田勝郎 先生
金沢大学付属病院 病院長
金沢大学 整形外科名誉教授

講演プロフィール

- 1945年(S.20) 2月生まれ
- 1969年(S.44) 金沢大学医学部卒業
- 1970年(S.45) 金沢大学医学部整形外科学教室に入局
- 1976年(S.51)~1977年 アシスタント・インチャージ
口スワムル・ハーフ癌研究所に留学
- 1985年(S.60) 助教授
- 1995年(H.1) 教授
- 2008年(H.18) 教授、金沢大学付属病院 病院長(2期4年)
- 2010年(H.22) 同 教授兼副院長、同 病院長、再任(3期5日) 現職に在任
- 平成5年 整形災害外科学会副総会Zimmer-Japan奨励賞 受賞
「腎臓腫瘍に対する腎臓全摘除と腎臓全摘除後の腎臓腫瘍」
- 平成18年 北信越文化賞
「腎臓がんの手術療法」他
- 平成20年 文部科学大臣賞(科学技術賞(奨励部門))
「腎臓腫瘍の診断・治療:カフエイン化学療法」他
- 平成22年 日本整形外科学会 学芸賞
「腎臓腫瘍外科治療への貢献」

ほか、各誌

主催 社団法人 新潟県接骨師会
後援 佐渡市、佐渡医師会、新潟日報社、BSN新潟放送

▲ポスター



▲熱心に体操する参加者

諦められていた病気が治るものになる
とのことでした。

講演の最後に「数学でも $2 \times 5 \times 2 \times 5 = 100$
なんだからニコニコしていれば100歳まで生き
られるんです」とのお話には会場が大爆笑につ
つまれました。

「会場には熱心にメモを取っている人がおら
れ、その方々のためにゆっくり話しました」と
富田先生から後でうかがい、そのやさしさに頭
の下がる思いでした。

なお、当日は市民講座の前に佐渡市在住の会
員に対して、阿部会長、大橋総務部長、野田保
険部長が講師となり下越支部研修会が行われま
した。

(広報員 中條 貴之)

愛知県

認知症に対する運動効果を紹介

8月21日(日)、愛整会館講堂で第21回機能訓
練指導員実務研修会が開催された=写真。

厚生労働省は、来年度以降の介護予防事業と
して「介護予防・日常生活支援総合事業」とい
う新たな展開を提示しており、我々も運動器の
機能訓練以外の部分についてもさまざまな対応
を求められる可能性がある。そういう意味にお
いて、周辺情報のひとつとして認知症に関する
知識を習得することは決して無駄ではないと考
えられる。

そこで今回は、日本福祉大学健康科学部准教
授の山中武彦先生をお招きし、『認知症疾患と
高齢者向け機能訓練』と題してご講演いただ
いた。雷鳴が轟きバケツをひっくり返したよう



激しい雨にも関わらず、224名の会員と9名の
勤務・家族柔整師が参加し熱心に聴講した。

山中先生は、柔整的アプローチが認知症高齢
者に対してどのようなアウトカム（研究によっ
て得られる基本的な成果）をもたらすか一緒に
考えていきたいと前置きし、「認知症概論」・「認
知症の機能訓練」・「認知症の評価」について述
べられた。

認知症概論では、認知症の多くを占める、脳
血管性・アルツハイマー型とレビー小体型につ
いて病態を詳述された。

認知症の機能訓練では、運動療法の効果を紹
介された。間接的効果としてはメタボリックシ
ンドロームや行動心理学的症候（異常行動）の
予防と改善が、また直接的効果として継続的ウ
ォーキングによる認知機能の向上や運動習慣
（有酸素運動）による認知症リスクの軽減が挙
げられる。しかし動物実験では、記憶を司る海
馬の再生や脳由来神経栄養因子の分泌促進、ア
ミロイドβタンパクの産生抑制が確認されてい
るものの、認知症状の改善に対する運動効果に
ついてはエビデンスが充分ではない。

認知症の評価では、運動療法をはじめとする
非薬物療法の介入効果を MMSE・NPI・CDR-J
などの国際基準の評価方法を用いて検証し、エ
ビデンスを高めていく必要があると評価の重要
性を語られた。

山中先生は最後に、認知症状の中で最終段階
まで残存する身体機能にアプローチすることは、
症状の改善や進行の遅延に有利であると締めく
くられた。

参加者の多くはすでに認知症サポーター養成
講座を受講しており認知症の基礎知識は習得し
ているが、山中先生から提供された詳しい情報
は我々の知識をさらに広げるもの
となった。

また、今後認知症に対する運動
療法の効果に関してエビデンスが
確立されれば、介護予防の機能訓
練が運動器にとどまらず認知症に
も有効となる可能性も秘めている。
柔道整復師に新たな活動の場を期
待させる大変興味深い内容であっ
た。

(広報員 長谷川 貴一)

三重県

平成23年度学術研修会 ・ 保険集団指導会

平成23年9月25日(日)午前10時より、津市アストホールにおいて平成23年度・学術研修会・保険集団指導会が、会員150名・勤務柔道整復師6名・社団外27名の参加により開催されました=写真。



会長挨拶後、保険集団指導会では、全国健康保険協会三重支部より「申請書の問題点と注意事項」を、三重県国民健康保険団体連合会より「国保申請書の取り扱いについて」ご指導いただきました。

続いて、保険副部長より全国介護保険部会報告があり、地域支援事業への参入状況ほかの説明がありました。

昼食後午後からは、保険部よりお知らせがあり、「柔道整復療養費審査員の立場から見た保険問題について」と題し、本会保険担当副会長が公的審査員としての視点より見た、柔整業界の問題点について指導がありました。

不正請求の問題、最近の受領委任取り消しの事例、個別指導及び監査指導、保険申請の問題点、自賠責の一括請求と被害者請求・判例ほかについて大変詳しくご説明いただきました。

休憩を挟み学術研修会では、伊賀支部の礼堂勇会員による『負傷後長期にわたり膝蓋跳動を認めた一症例』の研究発表がありました。

そして特別講演には伊藤毅先生(医療法人朋友会 伊藤クリニック院長)による『MRI読影の基本—正常像から病変の認識まで—』をお話いただきました。

画像診断とMRIの位置づけ、MRIの基本原理、主な撮影法、撮影上の注意点、実際の症例について大変ていねいに分かりやすく講演いただき、有意義な一日が終了しました。

(広報員 伊藤 昌夫)

兵庫県

平成23年度 第2回 スポーツ科学講習会

平成23年7月31日(日)、本会会館5階多目的ホールにおいて、標記講習会が大学より専門講師をお招きして開催された。当日は、本会会員45名の参加があった。

演題は、『骨盤周囲筋の筋長と筋力の診方—骨盤の代償運動をいかに考慮するか—』であった。

最初に〈姿勢と痛み〉についての講義から始まり、不良姿勢によって脊柱や骨盤周囲筋に過度にストレスがかかり、さまざまな影響や代償が起こることをわかりやすく説明いただいた。

次に実技に移り、立位での姿勢分析方法と股関節屈筋群および伸筋群の伸張と短縮を観察する〈筋長テスト〉の方法について指導があり、会員相互にペアを組んで行った。

本会では、毎年学術部が中心となり専門の講師を招き、年に3回会員を対象としてさまざま



▲実技

な角度から学術研究を目的とした『スポーツ科学講習会』を開催している。

今回も会員の皆さん全員、しっかりと明日からの臨床に役立てようと真剣な眼差しをもって講義を受けていた。

平成23年度 第3回 スポーツ科学講習会 — 赤十字救急法 —

平成23年9月25日(日)兵庫県柔道整復師会館5階多目的ホールにおいて、標記講習会が、日本赤十字社兵庫県支部より2名のインストラクター(赤十字救急法指導員)を招き本会会員34名の参加を得て開催された。

最初に救急現場における「赤十字救急法」についての講義から始まり、止血の方法、三角巾を用いた手当てでは、三角巾のたたみ方、結び方、ほどき方、額・頭頂部・耳・前腕・膝・肘などケガの部位に応じた巻き方を2人1組になって行った。



▲担架による搬送訓練

次に行われた搬送方法の実技では、まず一人で運ぶ方法、複数で行う担架による搬送、毛布を利用し担架の代わりにする搬送方法と救護の現場、大規模災害時また、日常生活におけるアクシデント遭遇時などに必要な知識と技術を分りやすく説明いただいた。

(広報員 相江 勝弘)

※

大阪府

平成23年度 第1回 医療人 (柔道整復師) 研修講座

9月11日(日)午前10時30分より財団法人柔道整復研修試験財団の主管で、近畿・大阪ブロック会場の公益社団法人大阪府柔道整復師会 大阪柔整会館において、全4回延べ20時間の医療人(柔道整復師)研修講座(以下卒後研修という)が始まった=写真。

開講式で社団法人日本整復師会近畿ブロック会の萩原隆会長は「平成17年度から開催されて今年で7年目となります。この研修講座を通して柔道整復師の資質の向上、並びに適正な業務に携わっていただきたい」と挨拶された。

来賓の紹介に続き、演題『研修の目的と意義』と題して公益社団法人大阪府柔道整復師会の安田剛副会長が講義の中で「柔道整復師卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格を涵養するとともに、果たすべき社会的役割を認識しつつ、業務として取り扱う外傷などに適切に対応できるよう、基本的な臨床能力(態度、基本的知識、技能)を身に付けることにある」と研修目的を述べ、医療人としての倫理、社会的役割を十分に理解することと、業務を取り扱うために、必要な知識とは何かを把握することについて、卒後研修の意義と必要性を話した。

大阪府福祉部国民健康保険課の竹森勝雄総括主査は、『保険制度』と題して、健康保険の沿革から医療保険制度や介護・交通事故に至るまで幅広く話され、医療費と療養費の違いなど正しく理解し、適正な業務を遂行しなければならないと講義された。



▲第1回医療人研修会

公益社団法人大阪府柔道整復師会オージェイクリニックの堺秀行院長は『医の倫理』と題して医の倫理を学ぶ目的を話し、社会人・医療人としてのマナーと、患者・家族へのマナーについて説いた。

また、インフォームドコンセントの起源から患者とのコミュニケーション＝医療面接＝について、患者の生活を知り、医療者が患者（家族も含めて）と一緒にその問題を解決していくことが重要であると強調された。

そのためにはコミュニケーションの3条件が大切であるとして、「相互性」「水平性」「対面性」を示し、第1回の講座を終了した。

第2回 府民健康づくり講座 楽しく生きる「健康柔(やわら)体操」

9月10日(土)午後3時より、大阪柔整会館5階大ホールにおいて、柔道部主催による第2回府民健康づくり講座「健康柔(やわら)体操」が行われた。この講座は、本会が広く府民に開放している講座の一つである＝写真。

田中義昭柔道部長の司会により、健康柔(やわら)体操指導者 筧健史(福島支部)、片山薫(淀川支部)、山田豊(鶴見支部)の3会員



健康柔(やわら)体操



の指導により、30名の参加者が健康柔(やわら)体操に勤しんだ。

この体操の歴史は古く、柔道の創始者、嘉納治五郎先生が、昭和2年に考案された「精力善用国民体育の形」が原型である。その形に改良を加えて近年、(財)柔道整復研修試験財団が、健康増進を図る有効手段として、今日まで普及発展してきたものである。

この体操を広めることによって(院外でも)柔道整復師が、高齢化社会に対して、国民の健康増進に寄与し、予防医学の面でも積極的に社会に貢献できるものと期待している。

この健康柔(やわら)体操は、関節・筋肉系の柔軟性を保ち、呼吸器系や循環器系の強化が期待でき得る体操である。

各施術所においても広い場所を必要としないで、器具も使わずに行え、老若男女を問わず楽しくできる運動である。

ぜひこの健康柔(やわら)体操を、各市区町村の地域住民に広く普及していただきたい。

〈参考〉健康づくりアニメやわら体操

<http://members.jcom.home.ne.jp/setukotu/image/list.html>

公益社団法人 大阪府柔道整復師会ホームページに JUDO THERAPY TV ch 02 にも紹介しております

http://www.osaka-jyusei.or.jp/judo_therapy_tv/yawarataisou/

第5回 大阪学会

8月21日(日)大阪国際会議場において、第5回大阪学会が開催され、学生を含む約600名が参加して盛大に開催した＝写真。

特別講演での講師、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻特任助教・鈴木善充先生は、医





▲特別講師 鈴木善充先生

療費を含めた社会保障に関する分野ではたいへん精通されており、今回の演題『日本における財政運営の課題—少子高齢化経済下における税・社会保障制度改革—』では、東日本大震災以降に今後予想される厳しい日本経済下において、これからの社会保障の在り方や制度などについて鋭く語っていただいた。

また、会員による一般発表11題や養成校の学生によるポスター発表7題など多数の研究発表、症例報告のあと、質疑応答では質の高い質問が相次ぎ、発表に対する関心の高さがうかがえた。

『負傷名について考える～柔道整復業務に再検証～』と題したシンポジウムを開催し、今後柔道整復師の業権・業務拡大を主張する“考える”機会を得たのも本大会の特徴である。

このように大阪学会も5回目を迎え、ますます充実したものになってきた。

この学会を通じて、大阪府民から信頼される医療人としての資質の向上、人格の陶冶に努め、柔道整復師が未来永劫国民に愛され支持されるよう努めていきたい。

(広報員 山田 豊)

広島県

平成23年度

第1回 学術部主催研修会

平成23年7月24日(日)県会館にて「平成23年度第1回学術部主催研修会」が開催されました。

この研修会は経験の少ない若い会員の施術のひとつの指針になればという考えのもと、昨年度から長岡正樹学術部長を旗頭に作成された「柔整師のための疾患別マニュアル」を教本と

して行っております。

今年度の第1弾は『頸部捻挫』を中心に行われました。

前年度からこのたびで通算4回目となる「柔整師のための疾患別マニュアル」を教本とする研修会は毎回、日々の施術の中で比較的遭遇することの多い疾患に対する施術を、経験豊富な各先生方の施術、固定方法や経験談、失敗談も含めて、単なる「聴く」研修会ではなく、生きた知識を「感じる」ことのできる研修会です。



▲実技講習



このたびは『頸部捻挫』ということで、問診、触診などの留意点などから始まり、頸椎カラーの固定が有益か否か、牽引療法の注意点など、各先生方の考えや経験が活発に発言され、はっとさせられたり、自分と同じ方針で安心したりしながらできる講習会となりました。

若い会員はもとより、参加したすべての会員が日々の施術で抱えている疑問などに対しても、闊達に意見交換ができる場となっております。

今年度も第2弾、第3弾と学術部は計画をしているようです。

広島県の技術の底上げは長岡学術部長の音頭のもと、着々と進行中です。

(広報員 宮迫 太一)

北海道

2011年日本柔道整復接骨医学会 主催 研修会（北海道会場）

2011年日本柔道整復接骨医学会主催研修会（北海道会場）が台風による悪天候のなか、道外から2名、全道から160名、学生30名合計192名の参加を得、平成23年9月4日(日)午前9時30分より北整会館4階大講堂において開催されました。

開講式で認定柔道整復師制度委員会の宮永豊委員長は、現在医師も認定制度により意識や技術を高める努力を行っており、我々柔道整復師も社会的要求の高まりに見合った、もしくはそれ以上の知識を身につけていってほしい旨述べられ、さらに今後接骨医学会の発展と、国民の健康を守るためにも認定柔道整復師制度への登録を依頼され挨拶とされました。

続いて萩原正和北整会長は、今回北海道でこの講習会が開催されたことに謝意を述べるとともに、開業柔道整復師が増える中、このような講習会をきっかけに認定柔道整復師へ登録、また他の開業者よりも多くの知識を得るため学習し業務の中へ生かしていってほしいと述べられ挨拶とされました。

〈第1講〉筑波大学名誉教授 宮永 豊先生 『最近話題の運動器疾患』

これまでに概念や病態・症状などが明確ではなかったが、解明が進んだり新しく登場したりした疾患が報告されており、今回は骨、関節、軟部組織に係る疾患について解説しますと述べられ講演がスタートしました。

① 線維筋痛症は、検査・診断が困難で、病態や治療も確立しておらず、症状は全身性の疼痛、関節・筋痛、こわばり、疲労、頭痛、睡眠障害を呈し比較的右上半身と、右下半身に症状が出現しやすい。さらにADL、QOLの低下も見られる。

診断のポイントは、全身の9カ所、左右合



▲講演する宮永先生

計18カ所の定められたポイント中11カ所以上に圧痛を認められたもので、治療は薬物療法として抗うつ剤・抗けいれん剤、FM薬、運動療法、針灸、面談による疾患容認も効果がある。

- ② 慢性疲労症候群は、6カ月以上続く全身性の倦怠感と多様の症状を呈し、20代～50代の女性に多く、原因はかぜ、ストレス、感染、外傷で、診断は他の疾患を除外することで確定する。治療は対症療法として薬物、漢方薬、認知行動療法、ストレス回避、運動療法が挙げられる。
- ③ 脳脊髄液減少症は、頭痛・めまい・耳鳴り・腰背部痛・全身倦怠感で、診断にはRI、シンチグラムなどと日本脳神経外科学会の診断基準に基づく。治療は安静とブラッドパッチである。
- ④ むずむず脚症候群は、就寝時に脚がむずむずしてうずく、熱感の出現、他に不眠も現れる。女性に多く、原因は脊髄～視床下部のA11線維核のドーパミン不足と言われている。
- 診断には、
- a) 脚を動かしたいという要求が不快な下肢の以上感覚に伴い出現
 - b) その異常感覚が安静状態ではじまり、または増悪する
 - c) それは運動により改善し
 - d) 症状は夜間に増悪することで、治療はドーパミン作動薬投与、刺激物を避ける、運動、マッサージ、ストレッチなどが挙げら

れる。

⑤ 複合性局所疼痛症候群は、アロデニア、皮膚色変化、骨・関節の変化、ROM 制限、感覚異常、発汗異常で治療は ROM 訓練、温熱、低周波、交代浴、精神面のカウンセリングなどがある。

⑥ いずれもメディアでトピックとして取り上げられるが、病態・症状が不明なものが多く、痛みを主訴とすることより柔道整復師へ受診されるケースもあると思われる。

十分に鑑別診断を行い、専門医へ紹介することなども念頭に置きながら診療にあたることが肝要である、と述べ講演を終えました。

〈第2講〉北海道大学大学院医学研究科

教授 佐邊 壽孝先生

『がん研究の歴史と現状』



▲講演する佐邊先生

はじめに悪性新生物の国内外のデータで部位別に死亡率と治癒率について、50年間で心疾患と脳血管疾患は死亡率が減少しているのに対し、癌は増加していることを詳細に説明され講演がスタートしました。

「生物の偶然性（多様性）について、進化する中でその生物が生きるのに必要なシステムが遺伝として残り、これがその生物を生き残らせているのです。

メンデルが1866年に遺伝は固有の遺伝子により行われることを明らかにしたのを皮切りに、1953年には DNA の相補性二重螺旋構造モデルの提唱をワトソククリックが行い、さらに2002年にはヒトの全ゲノムが解読されています。

放射線の遺伝子への影響は、遺伝子が複製中に紫外線などを浴びた際、核酸の結合が狂ってしまうことがあり、これを治す際に起こる複製

は酵素反応であるためエラーが生じ、 10^9 個複製すると1回の頻度でエラーが発生します。

人の遺伝子は 3×10^9 塩基ですから1回細胞が増えるたびに3個の変異が起こります。放射能などにあたり、これを修復しようとするとその頻度はさらに高くなり、その位置が癌遺伝子に関係していると癌化が進みます。

癌には ras（低分子量Gたんぱく質）と src（細胞増殖因子）の関与が解明されています。

癌が発生するのはいくつかの段階が必要で、現在、人の場合およそ10個位の癌に係わる遺伝子の変異が起こると発生すると言われていています。ですから放射線により癌が発生するには数年から数十年の年月が必要と言われてはいますが、多くの放射能を浴びれば短時間で遺伝子の変異が一気に起こり短時間で癌が発生する可能性もあります。

反対に癌抑制遺伝子に変異が起こりその力が無くなっても癌が発生しやすくなります。現在、癌転移は血行性に起き、リンパ行性の転移はないと言われてはいますから、癌の治療として癌細胞が血管に入る前に元の細胞から分離するのをブロックする薬も開発されています。その中で抗癌剤イレッサは、ターゲットにするイーゼーリセッターを持っている日本人が多いため、検査してから使用するのが効率的です。

転移については癌が短期間に次々と発見される場合、原発巣から癌細胞が転移して成長するのではなく、初期過程から違った過程でその臓器で成長していることもわかってきました。ただし手術後十年以上して発症するのは原発巣からの転移ということもあります。

生活環境が悪くなったために癌が増えたと言われるますが、逆に良くなったため他の病気で死亡するより癌で死亡する割合が増えているのです。生物の基本的デザインは子孫が繁殖年齢に入ったら死ぬようにできていると思います。これを踏まえているいろいろなことも考えていただきたいと思います」と述べ講演を終えました。

〈第3講〉北海道大学病院整形外科

准教授 笠原 靖彦先生

『成長期のスポーツ障害の診断と治療』

はじめに総論として、「成長期のスポーツ障害・外傷は、解剖学的構造的にも生理学的機能



▲講演する笠原先生

的にも大人とは大いに異なる点に特徴があり、骨は軟骨部分が多く、成長途上の軟骨部分は力学的ストレスに弱い。関節の柔軟性が大きく、靭帯は丈夫なため、捻挫は比較的少なく、骨端線の損傷、骨折を引き起こしやすい。骨に比較して、筋肉・腱の発育が緩徐であることから、相対的に筋肉・腱は短縮し緊張を受けやすい状態にあり、肉離れやアキレス腱断裂などは少なく、付着部損傷（剥離骨折や骨端症）となる。なかでも最も危惧されるのは、骨端軟骨板が存在するために、骨端軟骨板を巻き込んだ骨折や障害では成長障害を生じ、脚長差や変形を後遺する」と説明されました。

また、「成長期の中でも身体の発育、成長するスピードは一定ではなくスキヤモンの成長曲線では年齢、成熟にあわせたトレーニング内容の選択が望まれ、身長に関するPHV年齢では、男子と女子では2年ほど女子が速く、この時期は急激な骨の伸張に筋腱の成長が追いつかないこともあり、関節の動きが硬くなり身体のバランスが乱れやすく、傷つきやすい時期である」と述べました。

続いて各論では、成長期に起こりやすいスポーツ障害を分類して、その診断と治療ポイントを詳しく説明しました。

① 骨端障害

肘・膝離断性骨軟骨炎、リトルリーグショルダー（少年野球肩）、オスグット・シュラッター病、シーバー病など。

② 疲労骨折・シンスプリント

成長期の疲労骨折は、ほとんどが下腿に発生し、中でも脛骨、中足骨に多く7割を占める。脛骨の疲労骨折は疾走型と跳躍型に分類され、跳躍型は難治性である。

シンスプリントは疾走型と跳躍型のスポーツが原因で脛の痛みをきたす障害名である。

③ 筋腱付着部炎・関連障害

成長期の筋腱付着部炎は肩峰下インピンジメント症候群、肘の上腕骨内側上顆炎、膝でのジャンパー膝、腸脛靭帯炎や鵞足炎、足関節のアキレス腱炎が代表的である。

関連（類似）障害として、有痛性分裂膝蓋骨や下腿コンパートメント症候群、足部の有痛性外脛骨などがあげられる。

④ その他の疾患

腰椎間板ヘルニア、鼠径部痛、膝前十字靭帯損傷、半月板損傷などスライドと動画をもとに説明されました。

最後に現在たずさわっている北海道サッカー協会U-12のメディカルチェックの内容、アンケート調査の結果を述べられて講演は終了しました。

〈第4講〉北海道大学病院大学院

准教授 近藤 英司先生

『膝靭帯損傷を科学する』



▲講演する近藤先生

はじめに膝の構造と機能として「膝関節は2つ以上の骨が連結する構造で、筋肉、靭帯および腱などから構成され、そのうち筋肉だけが自由に動かすことができ関節を制御します。

機能としては〈可動と支持〉の対極的な働きを持つ関節であり、肩などの球関節と違い骨性の支持にはおとるが、靭帯の補強によりなっています。

また、関節軟骨や半月板は、クッションの役割をするが、血管がないので自己治癒能力はほとんどなく、過度な加重などによる断裂時には自然に再生することは望めない、いわゆる消耗

品です」と説明されました。

続いて膝関節の外傷・障害の治療として、

「① 前十字靭帯損傷 (ACL) は主にスポーツの着地など、いわゆる自爆により損傷します。診断はラックマン・前方引き出しテストや回旋方向の不安定をみるピボットシフトテストがあり、その他、血液検査やMRIで診断します。

治療は関節鏡による靭帯再建術が行われますが、より強度な靭帯を求め、現在は最新の術式である移植靭帯を、前内側線維束・後外側線維束の2方向で組織形成する〈二重束再建術〉が行われています。

② 半月板損傷は、膝関節に異常な屈曲、回旋力が働いた時に、大腿骨、脛骨関節接触面の生理的な軌道がずれ、半月板の一部が関節接触面の間にはさみ込まれるものです。なかには外側半月板が生まれつきの形態異常で小学生くらいに突然膝が曲がらなくなる円板状半月板があります。

③ 変形性膝関節症は、膝関節を構成する骨や軟骨に慢性の退行性変化（老化）と増殖性変化が起こり、膝関節の形態に変化が生じる状態です。

女性に多く、骨粗しょう症も関係します。類似疾患として突然の痛み、夜間痛を起こす特徴がある特発性骨壊死があります。ほとんどが保存療法ですが、状態により骨髄刺激法、骨切り術、人工関節などを行います。しかし、人工関節に関しては機械ですから緩んだり、壊れたり、感染したりすることがありますので、私は積極的には行いません。

その他、最近ではバイオ軟骨移植という傷んだ軟骨を研究室に持ち帰り3週間くらいバイオしてから戻すという近未来的な治療もあります」

とスライドでOPなどの様子は動画をもとに詳しく説明され、講演が終了しました。

(広報員 錦川 正八)

医連携

千葉県

第13回 千葉県整形外科病診 連携セミナー開催！

平成23年7月29日(金)オークラ千葉ホテルにおいて、千葉大学名誉教授・接骨医学会会長の守屋秀繁先生が主宰する「千葉県整形外科病診連携セミナー」が今年度も開催され、本県社団会員柔道整復師が多数聴講し、最新の臨床整形外科領域における診断・治療法を学習することができた。

このセミナーは、臨床整形外科医が整形外科領域におけるプライマリーケアと、最新の診断治療法の習得向上を図ることを目的として開催されており、守屋教授と親交のある本県社団監事の保田宏先生のコンタクトにより我々柔整師も参加することが可能となっている。

そしてその結果得られたスキルアップを、それぞれの日常業務である臨床現場において的確な鑑別診断及び、患者さんへのインフォームド

コンセントに役立てることにより、柔道整復師の社会的信頼度の向上に寄与している。



〈代表世話人〉千葉大学・千葉市立海浜病院

守屋 秀繁先生

〈世話人〉

千葉県臨床整形外科医会 新井 貞男先生

千葉子どもおとなの整形外科

亀ヶ谷真琴先生

千葉県整形外科医会

小林 英夫先生



▲司会の高橋和久教授

千葉大学大学院医学研究院

高橋 和久先生

順天堂大学医学部附属浦安病院

一青 勝雄先生

東京慈恵会医科大学附属柏病院

藤井 英紀先生

東邦大学医療センター佐倉病院

古府 照男先生

日本医科大学千葉北総病院

南 和文先生

聖隷佐倉市民病院

南 昌平先生

千葉県整形外科勤務医会

山縣 正庸先生

東京女子医科大学八千代医療センター

山本 直也先生

帝京大学ちば総合医療センター

和田 佑一先生

〈特別講演 I〉

〈座長〉 帝京大学ちば総合医療センター

整形外科 教授 和田 佑一先生

『MRI による関節軟骨の評価』

帝京大学ちば総合医療センター

整形外科 准教授 渡辺 淳也先生

〈特別講演 II〉

〈座長〉 東京女子医科大学八千代医療センター

整形外科 准教授 山本 直也先生

『サルベージ手術や放置例から見た脊椎脊髄外科のあり方と術者の責任』

榛名荘病院、群馬脊椎脊髄病センター

センター長 清水 敬親先生

〈特別講演 I〉では、和田淳也先生がMRIによる関節軟骨の評価に関して定量的評価法、コラーゲン量・厚さ、そして変形度の評価では形態的異常の評価、再生軟骨の質的評価、軟骨保護作用の評価などさまざまな評価の種類と方法を解説、また関節リュウマチにおける軟骨の役割、そしてOAの進行は軟骨変性の進行に比例するなど、また改善薬（セレコックス）投与と運動療法による軟骨再生の評価、変性の進行形態、改善の進行形態など、MRI画像診断のオーソリティーならではのさまざまな角度から診断・評価法を講演された。

講演後の質疑応答では、将来的にはMRI画像診断による関節軟骨の体積の測定も可能になるであろうと答えていた。

〈特別講演 II〉では、清水敬親先生がご自身の



▲講演する渡辺淳也先生



▲講演する清水敬親先生

体験での脊椎・脊髄外科の手術は3分の1がサルベージ手術（他病院からのやり直し手術）である、手がけた患者は最後まで責任を持っていただきたい、再手術はリスクも多く大変であると述べた。

また、骨粗鬆症のための圧迫骨折による過度の脊椎変形や、若年性側湾症による極度の変形は将来的に内臓の障害も惹起することによるQOLの低下が考えられる、放置せず矯正手術をやるべきとの意見も、実際に厳しい症例を手がけてきた先生ならではの説得力のある講演であった。

なお、〈特別講演 I〉は日整会専門医資格継続単位1単位（01：整形外科基礎科学または12：膝・足関節・足疾患）もしくは日整会リュウマチ医資格継続単位1単位が認定されます。

〈特別講演 II〉は日整会専門医資格継続単位1単位（07：脊椎・脊髄疾患または14：医療倫理・医療安全・医療制度等）もしくは日整会脊椎脊髄病医資格継続単位1単位が認定されます。

また、日医生涯教育講座単位2単位（61：関節痛、60：腰痛）が認定されます。

（広報員 渡辺 勇）

●—防災・救護・スポーツボランティア活動—●

神奈川県

平成23年度災害時医療救護活動 研修会参加報告

標記研修会が平成23年6月30日、神奈川県総合医療会館7F講堂にて県保健福祉局保険医療部健康危機管理課の主催で開催されました。

I. 災害医療総論からVI. 地震と津波の6項目の県などの医療体制の座学講義を受けました。

その後、『トリアージの戦略と実際』を救護所、病院におけるトリアージエリア（TTT）のレイアウトから始まり、実際のトリアージ作業としてスタート法、ケアフライ法の2方法により被災者役の病院職員30～40名に症例ごとにタグを取り付ける訓練をしました。

2方法による仕分で赤、黄などタグの色に違いが出ることの説明並びに瞬時のバイタルサインの確認など、短時間での被災者の治療エリアへの誘導など、私たちの今まで参加した救護所訓練では担当エリアが決められ、「トリアージエリアは医師が行うべきもの」との考えで傍観者のように見ているだけだったことが誤りであることに気づかされました。

この研修会に参加して印象に残ったのは「柔道整復師、あるいは薬剤師であってもトリアージ訓練についても行わなくてはならない」ことでした。

参集した医療救護チームスタッフの一員である以上、大勢の被災患者が横たわっていたら《歩ける方はこちらに集まって下さい》と声掛けをして緑タグエリアに一次誘導を行う。それにより次に医師、救命士などが駆け付けた際には、より迅速なエリア分け及び早期処置が行えます。

毎年このような企画訓練研修会が行われております。

（広報員 白鳥 輝夫）

長野県

23年度長野県総合防災訓練

去る9月23日(祝)飯山市長峰スポーツ公園飯山市多目的運動広場にて、長野県総合防災訓練が開催された。

訓練目標として、災害時などの危険な状況下の中で自分自身の安全を確保するとともに、救護隊としてリーダーの指揮による規律行動および指揮命令系統の流れを再確認する。

いざというとき、互いに協力し合う体制づくりをするため、同じ赤十字関係者の活動について体験し、理解を深めることを目標に、長野県柔道整復師会赤十字奉仕団として主に医療救護所の設置、負傷者の応急手当、救護所への傷病者の搬送、傷病者の後方搬送について訓練を行った。

今年は東日本大震災ならびに長野県北部（栄村）地震災害があったため参加者全員例年以上に真剣に取り組んでいた。訓練を体験してみて、いかに指揮命令系統が大事かということを確認することができた。

〈参加者は以下のとおり〉

阿部 脩三	松坂 佳雄	西條 義明
鶴田 隆	小林 修	井出 和光
小橋 義彦	塚田 剛	福沢 亮
淵田 高章		

（広報員 松坂 佳雄）



▲訓練参加者

石川県

第61回全日本実業団バドミントン選手権大会

平成23年6月29日(水)～7月3日(日)、いしかわ総合スポーツセンターにおいて標記大会が行われ今年度から活動を開始した石川県スポーツトレーナー連絡協議会(以下IST)の依頼を受け本会から赤十字奉仕団・サポート接骨石川(以下SSI)・ISTの西川典孝会員・佐藤裕之会員・川本力雄会員・河合甚敏会員がサポート活動を行いました。

大会は約2,000名の参加者で期間中延べ60名程の選手をサポートしました。ほとんどのチームは専属のトレーナーを帯同しておらず、トレーナーを帯同しているチームは、決勝に残った数チームでした。今回の活動は、選手はもとより、大会関係者からも大変喜ばれ各実業団の選手に大変好評な活動となりました。



▲バドミントン選手権大会でのSSIスタッフ

2011日本スポーツマスターズ石川大会

平成23年9月16日～19日、美川総合スポーツセンターにおいて標記大会が開催され本会からスタッフとして、山下純二 SSI 委員長・堂本義邦本会総務部長・佐藤裕之 IST 理事・西川典孝 IST 理事4名がバドミントン会場で、トレーナーブースの設営と選手への救護活動を行いました。4日間で延べ132名の選手が訪れ、傷害へのメンテナンス、テーピング処置、医療相談などを行い大変好評でした。当日医師であるIST会長の北山吉明先生もトレーナーブースで我々柔道整復師とともに一緒に活動され、大変意義のある医接連携活動となりました。



▲スポーツマスターズ石川大会でのSSIスタッフ

第25回猿鬼歩こう走ろう健康大会

平成23年9月25日(日)、能登町で標記大会が開催され、共催である本会からは赤十字奉仕団・SSIのスタッフとして会員16名が早朝7:00から選手のケア活動を行いました。ハーフマラソンから5キロのウォーキングまでの20部門に分かれているこの大会には県内外から約1,100名が参加、スタート前からSSIのブースにも続々と選手が訪れ、アイシングやテーピング、ストレッチなどのケア・サポートをレース前に101名、レース後116名合わせて217名に行いました。大会関係者・選手の皆様に大変喜ばれよいボランティアの機会となりました。



▲猿鬼歩こう走ろう健康大会に参加したSSIスタッフ

全日本こまつ鉄人レース2011

平成23年9月24日・25日、小松市小松ドームにて標記大会が開催されました。当日は晴天の中、総競技者534名（完走者521名）が過酷なレースを行いました。



▲全日本こまつ鉄人レース2011



▲トレーナーブース利用率は48.7%

トレーナーブースは両日で、レース前に74名、スタート後186名、再受診が34名、合わせて294名、ブース利用率は48.7%あり、競技者より感謝や完走できた喜びや、試合後の疲れきったメンテナンス中の選手から、「明日からの生活にまた頑張れます」と感謝や完走できた喜びなどの言葉をいただきました。トレーナーブースでは延べ30名の本会スタッフと金沢大学トレーナー部の学生14名合計44名でケア活動をしました。

今回の大会は30周年記念大会として開催され、今までボランティアとして協力した本会に対しトレーナーとしての救護活動の表彰があり感謝状と盾をいただきました。

(広報員 佐藤 裕之)

愛知県

トライアスロン大会を支援

9月18日(日)、「アイアンマン70.3セントレア常滑ジャパン2011」が開催され、本会から地元半田地区の若手会員を中心に45名の会員が救護などの選手のケアにあたった。この大会昨年、日本初として当地で開催され、本会も2年連続の参加となった。

海外からの強豪選手ら1,258名が参加し、中部国際空港を臨む常滑港をスタート、りんくう海浜緑地北広場をゴールとし、水泳1.9キロ、バイク90キロ、ラン21キロの計112.9キロ(70.3マイル)で競われた。本会からも昨年同様3名の会員が選手として過酷なレースに挑戦した。

大会は常滑市全域が会場となったため、猛暑の中地元ボランティア1,300名がレースの成功を陰で支えた。本会会員は午前10時に常滑市役所駐車場に集合したあと、ゴール地点にテントを設営し、日赤医療団支援のもと、肉体と精神の限界に挑んだアスリートたちのサポートに努



▲救護ケア



めた。ケアに訪れた選手は全部で379名、運動器の痛みや損傷がほとんどであり（疲労によるものは16名・4.6%のみ）、愛知県柔道整復師会の存在を示す有意義な活動ができた。

大会2週間前の9月4日(日)には常滑市文化会館で事前準備会が開催され、大会実行委員会から詳細説明を受け救護・ケアの確認を行った。なお、準備会の模様は中日新聞地方版に大きく取り上げられ写真入りで掲載された。



▲参加ボランティア

県総合防災訓練に参加

愛知県の東部（旧三河国）の北東の山間部を奥三河といい、その中心に新城市がある。人口約5万人、森の石松の出生地ともいわれるこの町で、8月28日(日)午前8時30分より、東海・東南海地震の大規模な発生を想定した総合防災訓練が、市と愛知県との共催で行われた。

会場となった長篠のふれあいパークほうらい（メイン会場）と、鳳来中学校・鳳来西小学校（サブ会場）には「県民総ぐるみ防災訓練」として、県警・消防・自衛隊・医療・ボランティア等の65機関の延べ2千人が集結。

市内で震度6弱を観測し各地区で大規模災害が発生したとの想定で、迅速かつ的確な応急活動のための協力体制の確立、地域の連携を生かした防災力の強化と防災意識の高揚を図ることを目的に、消火や救助などさまざまな訓練が繰り返げられた。

本会は愛知県と災害協定を結んでいるため、今年で4回目の参加となった。4日前の8月25日(日)には、本会会館に参加者が集まって準備会を開催し、担架搬送訓練や家庭内にあるものを使っての四肢の固定の練習などを行い、万全の態勢を整えて訓練当日に備えた。

参加会員は柳田松三担当副会長はじめ本会事業部員や新城市を擁する豊橋地区の理事と会員ら計15名で構成され、メイン会場では担当の7名が午前9時より午前11時まで応急救護所での負傷者の救急・救護措置（担架搬送を含む）をサポートし、泥まみれになって活躍。

サブ会場の鳳来中学校でも担当の7名が、体育館2階で午前9時30分より1時間、自主防災会・鳳来中学校生徒ら74名の前で応急手当の実



▲防災訓練参加者



技指導講習を実施した。またメインとサブ会場間は無線通信でつなげ、状況の把握と現状などの連帯確認。小林弘治事業部長が会場間を奔走し連絡調整に大奮闘した。

メイン会場ではヘリコプターによる吊り上げ救出、車内に閉じ込められた人の救出訓練や消火活動などの訓練も行われ、午前11時30分の愛知県知事大村秀章本部長の総評を聞き無事に訓練を終了した。

本会は名古屋市とも災害協定を結んでいる。1週間後、9月4日(日)に名古屋市総合防災訓練が予定されており、それにも数名が参加する予定であった。8月25日の準備会にも参加したが、台風12号の影響で中止となり、事前準備の成果が発揮できず関係者は肩を落としていた。

（広報員 長谷川 貴一）

介護関連活動

兵庫県

デイサービスを開設

このたび、兵庫県では地域の皆様の健康維持・向上のお手伝いをさせていただく目的で、日常生活動作の機能回復・向上訓練を主眼とした「リハビリデイサービス」を平成23年7月1日に兵庫県柔道整復師会会館1階に開設しました。

通常のデイサービスに比べ、入浴サービスや食事提供はしていませんが、それでも送迎車購入や、内装・機器類にもかなりの設備投資が必要です。

事業としてはリスクがあると思いますが、収益事業としての目的のほかに、会館の有効利用や、先細りの柔整業務に、新たな業務範囲拡大につながればと考え、近年急速に増加しています。「小規模」「短時間」「機能訓練重視」のデイサービスを会員に紹介。研修の場として、また、各種帳票類を情報提供していく役割も担う



▲会館前看板表示



▲施設利用者

モデル事業としての目的も持ち合わせています。

本格的な準備開始が少し遅れたため、まだまだ軌道に乗るところまではいつていませんが、3か月が経った今、ほぼ定員に近い状態に上がってきていますので、今後スタッフ一同、また、社団役員・会員も協力し、このデイサービス事業を何とか成功させたいと思っています。

〈事業所名〉『柔らかリハビリデイサービス』

〈事業規模〉定員10名、午前・午後の2単位

〈職員〉常勤職員2名・パート職員4名

『機能訓練指導員 フォローアップ講習会』開催

8月21日(日)、本会会館5階多目的ホールにて会員77名の参加の下、標記講習会が開催された。

午前の部は、塚本介護保険部副部長より、介護保険制度発足より現在までの制度の変更点、また来年度の変更点で現在、わかっていることの説明があった。

次に7月に開催された日整全国介護担当者連絡会議で、機能訓練を行う上でやり方及び評価の仕方を統一するよう指持されたのを受け、機能訓練について細かく説明があり、実際に実技を交えながら行われた。

昼食休憩をはさみ午後の部の前半は、藤本介護保険部長による兵庫県内での介護保険事業の現況について、

- 神戸市、尼崎市、姫路市での介護保険施設に機能訓練指導員を派遣している機能訓練指導員派遣事業



▲藤本介護保険部長



▲講習会

- あいおい市ののびのび健康教室、宍粟市の接骨院でのサテライト型の二次予防事業などの地域支援事業
- 接骨院と併設したリハビリデイサービスを行っている会員2名の施術所、及び本会会館1階で行われているリハビリデイサービスなどの介護サービス事業

以上のようなことが紹介された。

午後の部の後半は、安積美鈴主任指導員による、左右の指で違った動きをする指の運動や、指導員の出したジャンケンの後にそれに勝つ手

を出す“後出しジャンケン”など、指と頭のトレーニングを行ったが、できない会員が多く見られ、和気あいあいの雰囲気で行われていた。

最後に赤とんぼなどの音楽に乗せて行う「脳トレ」「筋力アップ」「ストレッチ」の目的別に分かれた体操6曲を実際に行い、終了となった。

講習会当日は、朝から夕方まで行われたが、講義から実技まで幅広く内容の濃い講習会となった。

(広報員 相江 勝弘)

東日本大震災

日整と都道府県社団法人柔道整復師会の温かい支援

公益社団法人日本柔道整復師会として、この度の東日本大震災に際し、平成23年8月30日に萩原会長、工藤副会長、松岡副会長が東京芝大



▲左から工藤副会長、大塚副社長、萩原会長、松岡副会長

門の日本赤十字社本社を訪問し、大塚義治副社長と面会し、500万円を寄贈いたしました。

大塚副社長は、ご多忙の中、快く面会に応じただき、日整の組織等に関心を持たれると共に、義援金の寄贈に心から感謝の意を述べられておりました。

会員の皆様からの貴重な会費から捻出した義援金を被災者の方々に有効に利用され、被災地の1日も早い復興を心より祈念いたします。

(総務部)

都道府県の社団法人柔道整復師会からも一日も早い復興を願い、日本赤十字社や新聞社、社会福祉協議会などに義援金を寄託した旨の記事が寄せられました。

(広報部)

青森県

今回の東日本大震災では青森県も甚大な被害を受けました。

社団法人青森県柔道整復師会では、震災直後の3月中に、青森県社会福祉協議会に20万円を寄付し、また東北の仲間である岩手県、宮城県、福島県の各社団に各10万円を義援金として送らせていただきました。

さらに4月に開催した大会主催少年柔道大会において義援金箱を設置し、その募金額とプログラム収益金との合計15万1,934円を義援金として青森県災害対策本部に寄付いたしました。

また、6月には大会弘前地区より弘前市役所に10万円を寄付いたしました。

今後も復興の手助けになる活動を続けていきたいと考えています。

山形県

社団法人山形県接骨師会での義援金は、各支部として実施し、山形支部20万円、庄内支部10万円、西村山支部5万円、最北支部8万1千円、置賜支部10万円と合計53万1千円の義援金が集まり、集まった義援金は東北ブロックの中でも甚大な被災をした福島、宮城、岩手の各社団に17万7,000円送金いたしました。

群馬県

群馬県接骨師会は、いち早く岩手・宮城・福島・茨城の各被災県社団へそれぞれ10万円を送付。上毛新聞社へ150万円、日赤群馬県支部へ100万円を寄託。その後、各施術所の募金箱より預かり分27万9,379円と、これまでの「ぐんせつ愛の募金箱」30万4,679円から岩手・宮城・



▲日赤の庄山課長(左)、大藤会長

福島の3被災県社団に被害の大きさを考慮し、それぞれ10万円を追加送付。さらに「ぐんせつ愛の募金箱」として上毛新聞社へ39万8,058円を寄託した。

千葉県

一般被災者への義援金活動としては、4月の本県社団会報にその旨の募金記事を掲載、さらに通常総会での呼びかけで全会員に周知徹底を図るとともに、本県会館の玄関窓口に募金箱を設置、現金封筒又は事務局専用口座への振り込み、更に療養費から指定金額を引き去る、などの多角的手段で義援金を募った結果、合計167万6,185円が集まり、内訳は日本赤十字社へ100万円(被災状況に応じて被災都道県に配分)・千葉県災害対策本部へ676,185円(被災状況に応じて被災市町村に配分)となりました。

また、各支部単位でもそれぞれの地域で、義援金募金活動のイベントに参加するなどの方法で貢献しました。

神奈川県

本会では震災直後より自主的に施術所窓口に募金箱を設置する会員も多く事務局への問い合わせも多数ありました。3月末に日整送付の義援金募集要項(4月1日～5月31日)期間と同様の期間を1次締め切りの期間と決めました。

結果といたしましては、77の施術機関および支部報告会終了後の懇親会での募金など会員も協力し148万4,903円の浄財が集まりました。

100万円を神奈川新聞厚生文化事業団に、48万4,903円を産経新聞横浜総局に吉田会長並びに両副会長らが同道し寄託してまいりました。

山梨県

本会では、3月19日(土)平成23年度の予算総会において、今回の東日本大震災支援に関する緊急議案を提案し、日整並びに関東ブロックと同一歩調を取ることで賛同を得ました、金額については理事会に一任することで決議されました。

3月25日(金)義援金の要請文を配布して患者さんに協力をお願いし、第1回目締切を4月10日として19万9,650円が集まりました。

2回目は7月に第32回県下少年柔道選手権大会の会場でも募金活動を行い合わせて25万

9,331円となりました。

- (社)茨城県柔道接骨師会にお見舞い金として
100,000円
- 公益財団法人山日 YBS 厚生文化事業団
1回目 4月13日 199,650円
2回目 8月17日 59,331円
- (社)日本柔道整復師会に 8月 200,000円
現在も募金活動継続中です。

東京都

公益社団法人東京都柔道接骨師会では、3月の東日本大震災の発生以降、直ちに本部1階の受付に募金箱を設置すると同時に、当会に所属する会員の各接骨院(約1,400カ所)に義援金箱の設置を呼びかけ、会員だけでなく接骨院へ通院される患者さんにも広く協力を依頼して、都内各地域の人々の志を被災者への救援金として募ってきた。

工藤鉄男会長と伊藤述史副会長は7月14日(木)、都内港区にある日本赤十字社本社を訪ね大塚善治副社長に面談し、各28支部を通じて4月末までに集められた364万197円の見舞い金を手渡した。

工藤会長は「本来は、日本全体を統括する社団法人日本柔道整復師会が47都道府県すべての分を集計してお届けする予定であったが、各県社団の都合もあることから、各県で個別の対応をすることとなり、今回は東京都社団の第1回集計分を持参させていただいた。少しでも早く被災地の方々のお役に立てていただきたいと思う」と話した。

今後も日本赤十字社・東京支社を通じて、後方支援の義援金の追加集計分の寄贈だけでなく、東日本大震災の被災地現場、救護所・避難所などでの更なる救護活動等についても、怪我への対応や心のケアを得意とする柔道整復師ならで



▲左から大塚副社長、工藤会長、伊藤副会長

はこの専門分野での協力をさせていただけるよう、日本赤十字社との連携や実作業での協力方法などについても大塚副社長と話し合い、単独ではなく関連行政や医師会との連携をも深めながら、可能な協力体制づくりを約束した。

新潟県

施術所に設置した義援金箱の義援金をとりまとめについて下記のとおり報告いたします。

義援金総額	1,002,183円
日赤新潟県支部へ	100,000円 3月25日
被災各県あて	900,000円
(岩手県、宮城県、福島県の各社団へ 各30万円)	9月20日

長野県

☆長野県柔道整復師会として

4月11日 長野県へ栄村義援金として10万円。

4月18日 日本赤十字社長野県支部へ被災地支援として20万円。

9月16日 日本赤十字社長野県支部へ被災地支援として10万円。

☆支部独自の支援取り組みとして

〈東信支部〉

4月10日 信濃毎日新聞社・信毎文化事業団へ東日本大震災・長野県北部地震災害被害者支援として10万円。

〈北信支部〉

5月9日 北信接骨師会役員一同で長野県を通じ栄村震災義援金として15万円。

〈南信支部〉

3月28日 飯伊地区より飯田・下伊那広域連合を通じ南相馬市より飯田・下伊那地区にいられた方々支援のため10万円。

4月26日 南信支部全体として日赤飯田地区を通じ日本赤十字社長野県支部へ被災地支援のため71,700円寄託。

その他個人的に多くの会員が義援金を寄付しており、またボランティアとして直接被災地へ、また後方支援として参加いたしております。

1日も早い被災地の復興及び被災された日整会員の復帰を長野県柔道整復師会会員一同、心よりお祈り致すとともに、今後も支援活動を続けてまいります。

石川県

震災直後の3月12日より義援金活動を開始し、ケアサポート活動のために参加したマラソン大会、定時総会、本会主催の少年柔道大会、各支部の行事などや各施術所に義援金箱を設置し、これまでに日本赤十字社石川県支部へ39万9,274円を寄託しました。

また、6月12日の日整代議員会・通常総会時には岩手県師会へ50万円、宮城県師会へ50万円、福島県師会へ60万円、茨城県師会へ10万円、千葉県師会へ10万円を寄付しました。

今もなお施術所に義援金箱を設置している会員もあり、個人的な寄付活動は現在も継続中。

その他には日本赤十字社特殊奉仕団として宮城県東松島市へ赴き、各避難所において被災者144名の医療救護活動を実施させていただいております。

福井県

☆「はつらつ」2号特集義援金報告について

下記のとおり報告させていただきます。

○被災された会員の災害復旧に一日でも早く役立てていただくために、会員及び事務局職員の有志による201名から1人5,000円の義援金と、当会からの義援金を合わせ、岩手県、宮城県、福島県の各県に50万円、茨城県に30万円の合計180万円を平成23年4月8日にお送りさせていただきました。

静岡県

静岡県では、全会員に義援金についての通知をしたところ、44万8,236円の寄付があり、日赤静岡県支部へ寄贈致しました。

愛知県

東日本大震災の甚大な被害に対して、本会は800余名の会員施術所に義援金募金を依頼、その総額は800万円を超えた。日整会員の収益の面での向かい風は愛知県でも例外なく吹いているが、その中でこれだけ多額の義援金が寄せられたことには、過去何度も行ってきた本会の社会貢献への取り組みが機能したという背景があったと言える。

発災3日後、本会は臨時通信理事会を実施。

会員をはじめ患者さんやそのご家族にご協力いただいて救済募金を実施することを全会一致で決議し、患者さんへの協力依頼用掲示文書と「関東・東北大震災救済募金」と印字したシールを急遽送付した。

なお、できるだけ早く被災者の役に立つよう、募金は4月7日までに事務局へ提出してもらうこととし、直接持参できない会員は事前に各地区の理事に届けてもらうこととした。

こうして寄せられた善意は、4月11日の理事会終了後に役員全員で金種ごとに仕分けし、4月15日に佐久間会長・柳田副会長・森川副会長・竹内事業部長・長谷川広報部長が中日新聞社会事業団を訪ねて義援金として寄託した。

当日現場で計測機器による最終確認をした結果、寄託額は期待を大きく上回る796万9,892円にも上った。

4月7日の締切り以降も一部の会員から募金が寄せられたが、事業団へまとめて寄託するという主旨からどこかで切りをつけなければならず、6月7日でこの活動は終了とした。この間に集まった10万6,181円も第2弾として寄託し、第1弾と合わせて総額827万893円もの義援金が集まった。

本会ではハイチや中国四川省の大地震の救済募金を実施したときに募金箱を作成し全会員に配布した。今回はそのときに使用した募金箱にシールを貼るだけで迅速に対応できた。もし実施を決定した後に募金箱を発注したり、あるいは会員個々に募金箱の作成を任せたりしていれば、多くの会員に即応してもらうのは不可能であり、おそらくこれだけの金額も集まらなかったらう。

また国内外の大災害への対応に加え、毎年の



▲中日新聞社 社会事業団に寄託

総会時などに恵まれない子への募金を実施したり、日赤の依頼による年末助け合い募金にも協力しており、このような会員の日頃からの扶助の精神が今回の目を見張る対応の土壌になったと思われる。本会は愛知県や名古屋市と防災協定を結び総合防災訓練にも参加している。これらの防災に対する意識も被災者への熱い思いにつながっているのかもしれない。

そして何よりも、各施術所で患者さんたちから多くのご協力をいただいた背景には、会員が日々心を込めて施術にあたっていることで育まれる患者さんとの心の絆が大きく寄与しているのではないだろうか。

岐阜県

県下、社団の各接骨院が窓口となり「東北・関東大震災被災者支援義援金」として、患者様から多くのご協力をいただき、第1期（3月20日～4月8日）には153万1,946円を、第2期（4月9日～8月6日）には62万102円を本会で取りまとめ、岐阜新聞・岐阜放送社会事業団へ橋本会長、鹿野、田口両副会長が届けました。

本会では、この活動を一時的なものにはしないという考えで、引き続き、ご協力をお願いしているところです。

滋賀県

東日本大震災の被災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

本会におきまして、会員にたいして現在も義援金の協力について継続中であり、今後もこの運動を継続して行きたいと存じております。

取り敢えずは現在の報告を下記のとおりさせていただきます。被災地におかれましては、寒さも本格化して参ります。お身体には充分ご自愛されますことをお祈りいたします。

義援金額 29,712円

京都府

東日本大震災発生直後より本会会館に義援金箱を設置。会員や来館者へ義援金協力をお願いをするとともに会員各位の施術所においても義援金箱を設置し、患者様にも義援金を募り、今日までに京都新聞社会福祉事業団に3回、総額51万4,823円を持参した。

また本年度の総会後の懇親会を自粛し、京都府の被災地復興支援事業に100万円とサージカルマスク9,000枚を寄付。

なお、京都新聞社会福祉事業団への義援金活動は現在も継続している。

和歌山県

和歌山県では、日整から依頼された義援金のほかに、被害の甚大な岩手県・宮城県・福島県の各社団へ20万円ずつお渡ししました。

また、会員から集めた義援金と施術所で患者さんなどからいただいた義援金をあわせ、定時総会時に来賓として出席された仁坂和歌山県知事を通して和歌山県の義援金受付へ50万円をお渡しいたしました。

兵庫県

当初、平成7年の阪神淡路大震災時に兵庫県へ頂戴した全国からのお気持ちを、本会としていまできる範囲での義援金を募っておりましたが、日整からの要請で、この分を兵庫県の募集委員会に義援金として寄附することにした。

金額：251万3,000円

寄託先：東日本大震災兵庫県募集委員会

大阪府

東日本大震災義援金を日本赤十字社に通じて、10月7日付 530万7,744円納めました。

岡山県

岡山県柔道整復師会では今年度総会にて3月11日東日本大震災に対し、義援金100万円を送ることを決め、7月25日岡山県知事に手渡しました。

山口県

3月11日震災発生後、すぐに役員の間で義援金のことが検討されました。3月29日、日整より義援金の要請があり、山口県独自の義援金をどうするかが問題となっていました。

5月8日の理事会で山口県独自の義援金を募ることが承認されました。

内容は以下の通りです。

会員1人につき5千円（会員数127名）、但し保険請求額の少ない会員は2千5百円とする。物故会員からの香典返し1名分10万円を加える。

合計金額70万2,500円。9月16日に日本赤十字社山口支部へ届ける。

島根県

この度の東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

この未曾有の災害に対して会員個々におきましてはさまざまな機関を通じて義援金を寄贈している事はもとより(社)島根県整骨師会は災害対策基金より義援金を日整を通じて被災会員へ30万円と、山陰中央新報社を通し被災者の方に対して日本赤十字社に20万円を寄贈しました。

高知県

会員個人の義援金6万5,267円と(社)高知県柔道整復師会103万8,589円を合わせ合計110万3,856円を、平成23年9月26日に高知県を通じ寄付させていただきました。

福岡県

当会では、日本赤十字社に対する東日本大震災義援金を任意の口数で募ったところ、ほぼすべての会員に賛同をいただいて229万3,000千円が集まった。

集まった義援金は、平成23年6月28日(火)に日本赤十字社福岡県支部へ持参し、対応された岡田事務局長に義援金が寄託された。

日本赤十字社より、義援金に対する感謝の言葉を頂き、被災地におけるボランティア救護活動のお礼、並びに継続的な協力をお願いされ、当会の活動に対して、社会的に高い評価を得る機会となった。



▲岡田事務局長へ手渡す松岡会長

佐賀県

5月1日(日)総会の折り富永敬二会長が、東日本大震災について佐賀県柔整会としての考え・取り組みを説明され義援金に関して満場一致で承認を得、実行を決定。

5月15日(日)開催した県下中学生錬成大会時、受付に義援金箱を設置した募金に加え、自主的に施術所窓口で募金した会員数名分と会からの補填分とした。

また、佐賀県柔道整復師会とは別に、会員が自主的に仲間を募り、会員や患者さん・学生などからボランティア活動協力費として寄付をいただき、数名の先生方が宮城県の柔道整復師会と連絡を取り合い、現地にて活動をしてこられました。

大分県

大分県は、各先生より一律2,000円をいただき、不足分を社団で補い30万円を「社会福祉法人大分合同福祉事業団」に寄託いたしました。

長崎県

震災後、緊急理事会を開催し、各整骨院に義援金箱の設置を決定した。会員、従業員、患者様を中心に義援金活動を2カ月間にわたり行った。5月29日の定期総会時に集計した結果、109万2,359円という善意の義援金が集まった。

6月24日、日本赤十字社長崎県支部に小柳会長、平山事務長が出向き、東北関東大震災義援金として寄託した。

宮崎県

3月11日の目を疑うような東日本大震災を見て、日整で募った義捐金のほかに、被災3県に各10万円を送らせていただきました。また、140名の会員施術所にて義捐金箱を置き、受診者からの協力をいただき、96万円余が集まり日赤へ寄託しました。昨年は、宮崎県で口蹄疫が流行し、全国から多くの応援をいただきました。今度は私たちが応援する時だとして、会員2名が約10日間、被災地へボランティア活動も行いました。会員が支部単位で救護物資を集めて搬送するなどの活動もありました。

未来を担う子供たち、 健やかに育てる！

●—少年柔道大会の開催—●

北海道

第34回北整柔道大会 第20回記念北整全道少年柔道大会 第1回北整全道少年柔道形競技会

平成23年8月7日(日)早朝から真夏日を予感させる日差しの下、小樽市総合体育館に全道から多数の選手が参集し平成23年度第34回北整柔道大会兼厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会北海道予選、第20回記念北整全道少年柔道大会と記念すべき第1回北整全道少年柔道形競技大会が開催された。

午前9時から行われた少年柔道大会では、萩原正和大会長挨拶の後、多くのご来賓よりご祝辞をいただき、さらに審判長より試合後に握手をして別れるよう試合上の注意事項が伝えられ大会が幕を開けました。

全道11ブロックより26チームの選手たちが集結して行われた戦いは、全道より勝ち上がってきた強豪代表チームであり、大いに周囲を沸かせました。その中で栄冠を手にしたのは、一昨年の覇者、登別誠有館有櫛道場を破った十勝選抜Aでした。

引き続き、全道各ブロック代表の7組14名による形競技大会が行われました。団体戦とはまた違った緊張感と、ピンと張り詰めた空気の中で行われた形の披露は、見ているこちらも思わず背筋を伸ばして観戦させられるほどの完成度でした。このような中、記念すべき第1回の大会を制したのは様似柔道少年団の千葉永吉選手(取)、清水畑凌選手(受)でした。

団体戦監督の遠藤俊春会員は「十勝の柔道人口が減少する中で優勝することができたのは、会員皆様の熱意溢れるご支援と温いご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。北海道の



▲形競技会



▲試合～大技も！

代表そして十勝の代表としてさらに一丸となり悔いのない試合を行い、講道館で日本一になるべく稽古に励む決意を新たにしているところでもあります」と述べられました。

また、形の指導にあられた中村和志会員は「投の形は礼法、基本動作(姿勢、組み方、進退動作、体捌き、受身など)、技の崩し、作り、掛けなど、柔道の基本を学ぶことができるよい機会だと思います。1月から講道館のDVD、各大会の模範演技などを参考にして、技の精度、スピード、強弱、間合い、進退動作、受身からの立ち上がり方、姿勢、気迫など、細部にわたり練習を積み重ね北整大会で優勝することができました。日整大会では演技の精度をさらに上

げ、大人とは違う小学生らしいキビキビした元気な演技で臨みたいと思います」と抱負を述べられ、今年も大会は無事終了しました。

午後1時から北整柔道大会が同会場において開催されました。萩原正和大会長は「我々柔道整復師と柔道を冠した職業に就くものは、柔道の精神を職の中に活かして初めて柔道整復師と言えるものですから、このことを心に命じ職務と柔道の指導にもあたって下さい」と述べられ、その後ご来賓にご挨拶をいただき、戦いの火ぶたが切って落とされました。

教え子の少年少女の声援が飛び交う中、いつもの指導者の立場とは違い、自ら真剣勝負に挑む厳しい背中を子供たちに見せながらの熱戦が繰り広げられました。

団体戦は、白軍10勝紅軍5勝で白軍が優勝杯を手に入れました。個人戦は、20～30代の部は佐藤裕美選手（北見）、40代の部は鹿又秀之選手（北見）、50代の部は佐藤克広選手（旭川）が接戦を勝ち抜き優勝を手に入れました。

また名誉会長賞は佐藤克広選手（旭川）

二瓶英雄賞は遠藤俊春選手（十勝）

優秀選手賞は奥山忠由選手（札幌）

飯野寿美選手（小樽）、柿崎憲一選手（北見）

渡辺忠昭選手（釧路）、和久朋行選手（名寄）

に送られ、大会の幕が下ろされました。

平成23年10月10日(月)に講道館で開催される日整全国柔道大会には、各年代の優勝者に20～30代の準優勝者と和久朋之選手（名寄）3位の高橋一夫選手（札幌）が加わり出場されます。

（広報員 錦川 正八）



東京都

第42回公益社団法人 東京都柔道接骨師会柔道大会

平成23年7月10日(日)講道館大道場において、第42回公益社団法人東京都柔道接骨師会柔道大会が開催された＝写真。今年は社団設立60周年を迎える節目の年であり、また公益社団法人を取得してから初の大会でもあった。当日は晴天で蒸し暑い中、400名近くの出場選手による激しい熱戦が繰り広げられた。

道場対抗少年試合では、昨年度準優勝の春日柔道クラブが素晴らしチームワークで、昨年度優勝の臥牛館道場に雪辱を果たし、見事優勝を飾った。この結果、上位2チームは10月10日(体育の日)に開催される日整全国柔道大会への進出を決めた。中学校対抗試合では、江戸川区立瑞江中学校が優勝を果たした。

また、今年から「投の形」による第1回少年柔道形競技会が行われ、出場5チームの中から優勝を果たした高尾警察少年柔道部が、第1回日整全国少年柔道形競技会への出場権を獲得した。形競技会終了後には、下地秀和会員（渋谷支部）・木目沢哲哉会員（世田谷支部）による「講道館護身術」が披露され、多くの喝采を浴びた。

午後の部では柔整学校対抗試合が行われ、決勝戦は代表戦にもつれ込む緊迫した試合内容となったが、了徳寺学園医療専門学校が日本柔道整復専門学校を破り、10年連続優勝の偉業を果たした。女子トーナメント軽量級は栗原つかさ選手（日本柔整）が優勝、重量級は太田琴乃選手（東京柔整）が2年連続の優勝を果たした。

注目の東京都知事杯争奪戦では、昨年度優勝の杉本秀人会員（世田谷支部）が切れ味鋭い技で、見事大会2連覇の栄冠に輝いた。

本大会では、徹底した審判のレベルの向上を図るため、6月5日(日)都柔接会館3階において、橋本昇副会



▲講道館護身術

長を講師に迎え、審判講習会を行いご指導をいただいた。こうした協力のお陰もあり、大会実行委員長の辰野正和新事業部長のもと、無事大会を終えることができた。これも偏に選手・監督をはじめ関係者の皆様、応援にいらした観客の皆様、大会運営にご協力いただいた役員・審判員・係員・柔道部会・都柔接事務局、その他多くの方々のご助力のお陰と、深く感謝申し上げます。

(広報員 新井 宏)

奈良県

文部科学大臣杯争奪 第20回日整全国少年柔道大会 奈良県予選会

平成23年6月19日(日)、奈良市中央第二武道場において、第20回日整全国少年柔道大会奈良県予選会を本会主催で開催した。大会には、県内各地から、200名余の選手が出場、本年も熱い戦いが繰り広げられた。

試合は個人戦4年、5年、6年生の部、団体戦低学年、高学年の部がトーナメント方式にて行われた。

個人戦は、10月10日(体育の日)東京・講道館にて行われる日整全国少年柔道大会への代表選手選考に加え、昨年に続いて開催される近畿少年柔道大会(平成23年8月7日開催)の代表選手の選考も兼ねた大会であることから、その

戦いに注目が集まった。

午前9時30分、本会、川口貴弘本会副会長の開会宣言に引き続き、辰巳二三雄本会会長からのご挨拶。「昨年の全国大会では、奈良県代表チームは新しいルールでの試合であったにもかかわらず、臆することなく果敢に試合に臨み、惜しくも準優勝でありましたが、素晴らしい成績を残しております。大きな震災があり何かと大変なニュースばかりが流れる昨今ですが、選手のみなさんの元気いっばいに柔道に打ち込む姿を見せていただくことが日本を元気づける大きな応援メッセージとなると確信しております。日頃の練習の成果を発揮できるように臨んでください」と出場選手を激励した。

その後、来賓の挨拶として奈良県議会議員の山本進章氏からお祝いと励ましのお言葉をいただき、選手代表として昨年全国大会準優勝の立役者の一人である中野斗真君(橿原市柔道クラブ)が元気よく選手宣誓を行い、日頃の練習の成果をフェアプレー精神で発揮することを誓った。

4会場に分かれての大会となったが、県柔道場協会のご協力のもと、滞りなく大会は進行された。

また、個人戦に関しては、地元ケーブルテレビ局である「近鉄ケーブルネットワーク社」のご協力で、テレビ中継を実施した。

今年で4回目となるこの試みは選手だけではなく、当日応援にくることができないご家族、ご親戚、友人にも、大会を見ていただけるとい



▲手に汗握る戦い



▲奈良県代表選手

うことで、評価を得ている。

試合の結果、本県代表として全国大会出場は以下の5名に決定した。

《個人戦》

〈4年生の部〉

優勝 井上翔汰朗 (天理樅本道場)

〈5年生の部〉

優勝 中野 寛太 (桜井市柔道連盟)

準優勝 梶本 光真 (大和柔心館)

〈6年生の部〉

優勝 中野 斗真 (橿原市柔道クラブ)

準優勝 藤井 大生 (大和高田市柔道連盟)

10月10日、講道館での全国大会優勝をめざして活躍を期待したい。

近畿ブロック大会出場選手は昨年と同様、全国大会代表選手を除いた、個人戦上位入賞者の中から各学年4名ずつを選出することとし、こちらも優勝をめざして頑張っていたいただきたいと思う。

(広報員 中川 雅文)

大阪府

文部科学大臣旗争奪

第57回大阪柔整少年柔道大会

(中学生の部)

第56回大阪柔整柔道団体優勝大会

—柔道の醍醐味を継承していく—

本大会は柔道整復師による柔道の発展向上を目指すとともに、少年少女の健全育成に努めるのを主旨に、本会の主催で、8月28日午前9時から大阪柔整会館において「第57回大阪柔整少

年柔道大会(中学生の部)」と「第56回大阪柔整柔道団体優勝大会」が開催された。

主催者を代表して安田剛大会会長の大会挨拶では「我われ公益社団法人大阪府柔道整復師会は、各種講習会の開催や地域に根ざした柔道大会を開催しております。本日は日頃の練習の成果を十分に発揮し、悔いの残らないよう精一杯戦ってください」と選手を激励する挨拶を述べた。

選手宣誓の後、試合では大阪柔整少年柔道大会(中学生の部)は、21団体の中学生男子63名の選手、また大阪柔整柔道団体優勝大会(一般の部)は、6団体30名の柔道家たちが集結した。

実力が拮抗する選手同士、技の攻防の中で一瞬のスキを突いて繰り出す技、相手の突進を利用して寝技に持ち込む選手など、互いの技を競い合うレベルの高い試合展開であった。

この2大会は、大阪を代表する柔道大会に数えられるほどの歴史ある柔道大会である。

◎大阪柔整少年柔道大会(中学生男子の部)

優勝 守口東部少年柔道教室準優勝

修養館 野遠柔道場

3位 大志館

3位 明武館 田邊道場

◎大阪柔整柔道団体優勝大会

優勝 大新柔道会

準優勝 ニュージャパン柔道クラブ

3位 柔剛会

3位 加美道場

大阪柔整柔道大会—紅白試合—

同日午後12時から大阪柔整柔道大会(紅白試合)が行われた。

出場選手たちはそれぞれの地域で開業されている先生方である由、とても少ない練習時間にもかかわらずキレのある技で戦っていた。

また、10月10日、講道館で開催される第35回日整全国柔道大会に出場する大阪代表選手たちには、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮して、悔いのないよう全力で挑んでいただきたい。

閉会式では入賞者の表彰と、功労者表彰が行われ終了した。



▲内股一本！

◎功労者表彰受賞者（5回出場表彰）

山口 欣也（大阪市此花支部・5回出場）
 呉 昌基（大阪市旭支部・10回出場）
 永野 秀信（東大阪支部・10回出場）

◎第35回日整全国柔道大会 大阪出場選手

20歳代 樋口 真臣（高槻支部・四段）
 30歳代 桂 剛（港支部・六段）
 40歳代 平田 和義（豊中支部・五段）
 50歳代 石居 謙二（東住吉支部・参段）
 （広報員 山田 豊）

広島県

第13回社団法人広島県
 柔道接骨師会少年柔道大会

平成23年8月7日(日)、広島県総合体育館武道場にて「第13回社団法人広島県柔道接骨師会少年柔道大会」が、県下36団体・選手総勢228名と大会が始まって以来最大数の団体・人数が参加し開催されました。

本大会は、それぞれ4年生の部・5年生の部・6年生の部に分かれてリーグ戦を行い、4年生の優勝者、5年生・6年生の優勝者・準優勝者は、「第20回日整全国少年柔道大会」に出場します。

うだるような暑さの中、田村大会実行委員長の開会宣言の後、長岡季空選手（西畑道場）の選手宣誓が行われ、熱戦の火ぶたが切って落とされました。

試合後、喜ぶ選手、くやしがる選手、泣く選手とさまざまでしたが、少年少女たちの柔道に打ち込む真摯な姿勢は清々しくさわやかでした。

さらには、その選手たちを取り囲む先生、仲間、保護者の方々の応援する姿もほほえましく、裏方ながら私自分も参加者の方々と一体感を感じた大会でした。

試合結果は、次のとおりです。

◎4年生の部

優勝 大垣麟太郎（廿日市市柔道連盟佐伯支部）
 準優勝 松森 秀磨（黒瀬柔道教室）
 第3位 八巻 衣音（川口道場）
 第4位 神部 航輝（高陽落合柔道教室）

◎5年生の部

優勝 八木 郁美（廿日市市柔道連盟佐伯支部）
 準優勝 清水 竜也（西畑道場）
 第3位 萩 優佑（荒神道場）
 第4位 福島 健介（西畑道場）

◎6年生の部

優勝 長岡 季空（西畑道場）
 準優勝 神垣 和也（広柔道教室）
 第3位 香川 瑞希（可部道場）
 第4位 前杵 秀明（廿日市市柔道連盟佐伯支部）

◎最優秀団体賞

廿日市市柔道連盟佐伯支部



▲各学年優勝者

10月10日(月)、全国47都道府県から予選を勝ち抜いた強豪48チーム（東京A・B2チーム）が講道館大道場に集結し、「第20回日整全国少年柔道大会」が開催されます。この原稿を書いている時点（9月30日現在）では試合結果はわかりませんが、8月7日の選手たち、そして彼らをサポートする人たちの姿を思い起こすと、広島勢の活躍を期待せずにはいられません。

がんばれ少年柔道広島戦士！！

（広報員 宮迫 太一）

身体機能を考えたテーピング

—ファンクショナルテーピング—

新潟県 小泉 靖

テーピングは応急処置における固定や傷害予防、パフォーマンスの向上など多くの臨床の場で使用されています。固定するというイメージがありますが、実際には逆に動きやすくなり動作の改善に繋がることも多々あります。

当院では対象者の動作および身体構造などによる機能の問題を改善するファンクショナルテーピング（以下FTA）を行っています。FTAは巻き方も重要ですが、そこに至る考え方が大切です。今回は内反捻挫を繰り返す対象者について紹介します。

■痛み違和感を覚える動作



サイドへの振り向き動作で足部に痛みや不安定感を覚えます。

ランニングからのストップ動作においても同様。（踵骨回外・下腿外施・前足部回外・足部内転）

■問題の抽出

テーピング施行前に問題点を抽出します。対象者の動作スキルの問題も考えられますが、まず足部を中心とした評価を行います。

■評価手順

①スタティックアライメント（静的アライメント）

関節不安定性・動揺性—足関節内反・外反。前方引出し。前足部回内・回外。第5中足骨不安定性。

関節可動域—足関節底背屈。足趾屈曲・伸展（左右差の有無の確認）。

筋力—足関節・足部周囲筋の筋力（内がえし・外がえしなど）。

その他—足部の状態（胼胝や爪・変形など）。

対象者の非荷重における評価で問題となることは「第5中足骨の動揺性」、「前足部の不安定性」、「内がえしの筋力低下」です。

②ダイナミックアライメント（動的アライメント）

スクワットやジャンプ、歩行やランニングなど症状の発生する動作を確認する。特に以下のテストは疼痛や不安定性を確かめる上で必須となります。

- Neutral test—膝と足部を直線化し下腿を前傾させる。
- Knee-in & toe-out test—膝を内側に入れて足部を外転にして下腿を前傾させる。
- Knee-out & toe-in test—膝を外側に入れて足部を内転にして下腿を前傾させる。
- 振り向きテスト—片側下肢の後足部に荷重して膝伸展位にて体幹を回旋させる。

実際には足部だけではなく骨盤や体幹を含めた全体で評価します。

■評価から問題点をまとめる

「第5中足骨の動揺性」

「前足部の不安定性」

「内がえしの筋力低下」

「下腿前傾制限」

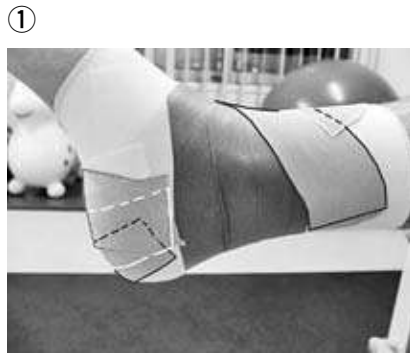
「踵骨の過回外」

「内側アーチの降下」

以上の問題点を考慮してFTAを行う。

■FTA の実際

①② 扇型スパイラルテーピング3本。踵骨内側より外側を通り下腿まで巻く。足関節の角度を変えながら関節軸を考慮して巻きます。(踵骨過回外の制動)



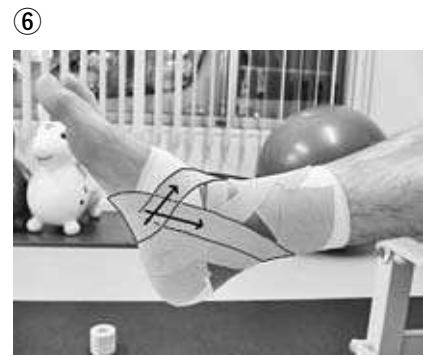
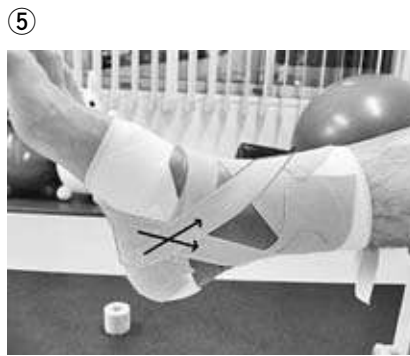
③ 足底中央から外果下部を通り下腿内側まで巻く。(後足部荷重での踵骨回外を制動)



④ 第5中足骨底面からテーピングをスプリットして1本は足背へもう1本は下腿へ巻く。(第5中足骨の安定化)

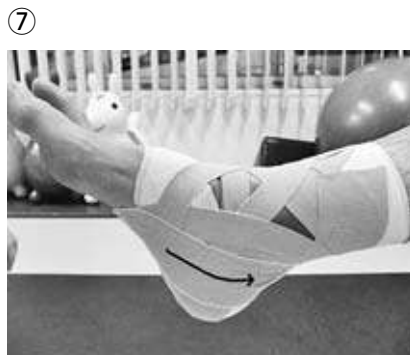
(外側)

⑤ 後足部内側のアーチテーピング。スプリットして交差させて巻きアーチの降下を抑える。(内側アーチ降下制動)



⑥ 前足部でのアーチの降下を抑える。(前足部の安定化)

⑦ 内がえしの筋力が低下していることから後脛骨筋のサポートテープ。(toe-out 制動)



⑧ アンカーを巻いて完成。

* 踵骨を安定させ内側アーチの降下を抑えることにより下腿の前傾角度は増加します。

* 実際のテーピングでは踵骨を Neutral な状態にして内外反を抑えながら巻いたり、第5中足骨を骨底から押し上げたりして巻いています。抽出した問題を考慮しながら unnecessary な動きの制動と荷重の誘導を行うことで本来の足部機能を発揮させることができます。

(内側)

■効果判定

テーピングに意図した効果があるか判定します。今回は内反捻挫に対して行っていますので、内反の制動が一番の目的になります。

①スタティックアライメントの判定

非荷重にて内反動作を足関節の角度を変えてテーピングにて制動が行われているか判定する。

②ダイナミックアライメントの判定

一通り評価は行いますが今回は症状が明確だった「振り向きテスト」を挙げます。



■振り向きテストによる判定

踵骨の過回外、第5中足骨の不安定性があり後足荷重で体幹を回旋させると拇趾が浮き前足部は過剰に回外します。

踵骨を中心に観察するとテーピングなしでは過回外し下腿も外旋が著明ですがテーピング施行後は制動されます。

テーピングを施行することにより足部は安定します。不必要な制動をしていないので関節可動域は確保されます。

対象者の感想も安心感があり動きやすいということでした。

■まとめ

対象者の個体の要因や競技の特性など考慮して施行することが大切です。最終的には筋力低下にはエクササイズなどを行い回復に努め、動作に問題があればスキルアップすることが必要です。またテーピングの長期施行には依存症やコストの問題もあり当院では足底板にて対応しています。

テーピングは内反捻挫一つ取り上げても対象者個々により変わります。評価による問題の抽出を行い適切な対応をすることでテーピングによる二次的な傷害発生やパフォーマンス低下に繋がらないようにしています。



Functional Orthotics Insole (機能的足底板)

■参考文献

川野哲英：ファンクショナルテーピング ブックハウス HD 1988 P26～34

FTEX Institute：FOI 3級講習会テキスト

今回ご紹介した FTA および FOI の技術は、FTEX Institute が開催する技術講習会および検定会の参加により修得したものです。

公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

ブロック	担当都道府県	学会名称	開催予定日	講師・演題
関東	社茨城県 柔道接骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第34回関東学術大会茨城大会	平成24年 3月11日(日)	「四肢外傷に対する 超音波検査のすすめ」 東京有明医療大学 保健医療学部柔道整復学科 学科長 柚木 脩 教授

北岳登山

大阪府 吉永 豊貴

北岳(3,193m)は、日本の中で富士山(3,776m)に次ぐ2番目の高峰で、その先にある間ノ岳は3,189mで4番目、農鳥岳は3,051mで15番目に高い山です。この山を白根三山と呼びます。今回はその3峰を走破するコースで行ってきました。

日程

- 8月11日、夜行バス京都発(23時3分)……JR甲府駅(12日6時43分)着。7時発タクシー……広河原8時30分着。登山開始……大樺澤二股11時30分……北岳肩の小屋14時30分着、泊。
- 13日4時40分発……北岳登頂6時……北岳山荘7時35分……間ノ岳9時30分登頂……農鳥小屋11時30分着、泊。
- 14日3時40分発……農鳥岳5時30分登頂……



▲北岳山頂より富士山をバックに

大門沢小屋11時30分……奈良田温泉14時30分着、温泉入浴。17時3分発身延行きバス……JR身延駅18時30分着。19時33分身延駅発……静岡駅新幹線乗り換え……京都23時……自宅23時45分着。

大阪からの費用

5万円+土産代5万円(甲州ワイン)=約10万円

総括

今年は3日も好天に恵まれ、山頂からは富士山も見え絶景で最高でした。老化は足からと言われますが、皆さんも健康、老化防止、柔道のトレーニングの為に山登りをしませんか？

国際少年柔道大会

大阪府 吉永 豊貴

平成23年8月7日、堺市大浜体育館において、NPO法人大阪国際柔道友好会(会長・橋本等理事長・松浦明弘)と財団法人堺市教育スポーツ振興事業団(理事長・池西隆昭)は、第8回キュウイカップ国際少年柔道大会を共催した。907名の国際少年が参加して優勝の栄冠を競い合った。

主催者

*NPO 法人大阪国際柔道友好会

大阪の柔道整復師が中心になり設立した組織で、外国人柔道家への支援や国際貢献・親善を目的にしている。

*財団法人堺市教育スポーツ振興事業団

堺市の外郭団体。堺市は人口842,818人(2011年7月現在)、市長は竹山修身氏。

大和王権の重要地で、エジプトのピラミッドに匹敵するような巨大古墳・仁徳陵があり世界遺産指定をめざしている。

刃物や鉄鋼などの工業が盛んであるが、スポーツにも事業団があることから推測できるように大変理解がある。

試合

この大会は、少年たちに国際交流と試合経験をと企画され8回目を数える。小学1年生から6年生までの学年別を基本に、1～3年生までは男女混合体重別。4年生は男女別。5・6年生は男女別で5年生は40kg未満と以上で、6年生男子は45kg未満と以上で行われた。

総括

下記の写真を見ていただきたい。一本取ろうと渾身でなおも決めに行く少年と、それを必死でこらえて技の効果を最小限に食い止めようと



▲8年連続出場者表彰 ブラジル選手団



▲各学年部門優勝者



▲少女と堺市84万人市長

ギリギリまで頑張る少年。これまでの修業で培った全てを出し切って戦う姿に思わず涙してしまう感動的な光景で、多くの試合でこのような場面が観られた。

一方、側らで少女の記念撮影の求めに、ここやかに応じる堺市長。竹山市長は柔道六段で大阪府柔道連盟顧問であり、忙しい公務の中、長時間にわたり観戦して少年たちを励ました。

ブラジル選手団は8年連続出場の表彰を受けた。そして907人の激戦を勝ち抜いて優勝の栄冠を手にした少年たち。

これらの出来事が少年、少女たちの心身の発達にどれほどの影響を与え、糧になることだろうか、計り知れない意義があるように思う。

(柔道評論家)

夢中で書き続けました

岩手 鈴子 陽一

このたび、ふだん日記など書いたことのない自分が、何かに取り付かれたように、ただただ夢中で日記を書き続けました。

目の前で起こったありえない光景。自宅は無事だったのですが、親戚や多くの友人、知人が命を失った。電気が復旧しない中、手作りの照明器具を作り「このありえないような事実は事実として書き残さねばならない。必ず人間の記憶は薄れて行く」と思い、震災当日の3月11日から5月25日までの約2ヶ月間以上を書き続けました。

震災翌日からは友人の安否を知りたい一心で、釜石市内を歩き回り、瓦礫の山と化した市内の現状をカメラで撮り続けたのです。

柔整師としては特に何もできなかったのですが、それぞれの人々がさまざまな想像を絶する体験をしていた。凄まじいこともたくさん聞きました。そしてその後、自衛隊や警察がいち早く駆けつけ、全国からのボランティアの人々も駆けつけてくれました。膨大な量の救援物資も届くようになり、何とか皆生き抜いたのです。

書き進めているうちに、人間同士の繋がり



▲定価=本体950円+税 発行所=つり人社

素晴らしさ、家族や友だちとの絆、人間の本当の愛を垣間見たのです。自分自身の価値観も変わり、心もさらに強く優しくなっていく……。

日本は、日本人は決してへこたれない！！日本は必ず復興し、国土も経済も震災前より進化することを確認したのです。あの戦後の復興も見事に成し遂げたのだから。

写真は自分で取ったもののほか、友人のプロカメラマンの菊地信平氏が撮ったものと、両川吉信氏のものがかかり大量に掲載されています。ぜひ、ご一読いただけましたら幸いです。

日接医学会で発表の演題が「産学官連携プロジェクト実習テーマ」に採用

長崎 森田 友良

第18回日本柔道整骨接骨医学会で発表した「ストレートネックを予防し快眠を促す頸椎枕」が平成22年度の産学官連携プロジェクト実習テーマに採用されました。

この枕は、仰向けの状態で、枕の窪みに後頭部を納め、顎を上げることで頸椎を持ち上げ頸



〈書〉
横浜北支部
水口 修 孝

西郷隆盛作

いく歴しんさんをへて
こゝろざし始めて堅し
丈夫玉碎せんぜんをは
ず我家のいほう人と知
るやいなや子孫の為り
に美田を買す

(以上 読)

長い事つらい事をへて
こゝろざし始めて堅く
なる。男と生れたら瓦
となつて生長らえるよ
り玉となつて碎けちる
事を望め

我家に伝わる家訓は人
が知らぬかも知れない
が子孫に榮をさせては
いけない。

アーチを整える設計になっています。



本実習は工学部の学生を対象に、地元企業、自治体などからものづくりに関する課題を受けて、教員の指導・支援のもとに、製品の開発、地域社会・環境に関する問題の解決を試みることにより、工学が社会のためにあるという強い意識を持たせるための組織です。

実習内容は、複数のアイデアの中から適切な枕サイズの定量的評価法が選ばれました。

ストレートネックを治癒するためには、個人個人オーダーメイドでサイズを調整する必要がある。(具体的には、仰向け時に頸椎に接触する部分の筒状構造の直径の最適化)

このため、この調整を工学的に定量化することを試みました。

具体的に、仰向け時に後頭部と接触する頸部

(枕上面)に、荷重センサーを複数設置し、各点の荷重を計測しました。荷重センサーを購入し、荷重センサーの計測をパソコンで行うため、センサーから USB 接続が可能な増幅回路を作成しました。

実験装置は、後頭部・頸部の圧力を抵抗に変え電圧で評価します。

実際に試作装置を用いて担当学生3人のデータを測定した結果、個人差が識別され、上述の診断機能を有していることが示唆されました。

平成23年1月18日に長崎大学工学部で公開報告会がありました。

本実習は個人では応募できないので、〈森田整骨院(有限会社フットケア)〉で応募し採用されました。

《ちょっといい話》

2011世界柔道選手権大会

柔道国際医科学シンポジウムに池畑啓作先生派遣！

平成23年8月22日(月)フランス・パリで開催された2011世界柔道選手権大会柔道国際医科学シンポジウムで、(社)千葉県接骨師会学術部員・市川浦安支部長の池畑啓作先生が日整より派遣され「摩介法(活性豫備法)に学ぶ柔整技法の一例」を研究発表された。

(広報員 渡辺 勇)



長野県中学校体育連盟より表彰される

去る平成23年9月2日長野県中学校体育連盟50周年記念式典において、長野県柔道整復師会が長野県中学校体育連盟より感謝状を授与された。これは多年にわたり当会スポーツボランティア委員会が中心になり、中体連各競技会に救護として会員を派遣していることが認められ表彰されたものである。文面は以下のとおりである。

感謝状

あなたは多年にわたり長野県中学校体育連盟の発展に多大な貢献をされました
ここに功績をたたえ感謝状を贈る

長野県中学校体育連盟
会長 柳見沢 宏

多年にわたり救護として参加協力された会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(広報員 松坂 佳雄)

日整文芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短歌】

回想

山梨県 明風 散人

文字刻み面打ちつゞけて三十年
未だ摸索の日々をかさねて

補聴器とマイクの兼ね合い念頭に
語尾はつきりと祝辞述べゆく

剪定済みてさやけき夕空の
梢にかゝる細き月あり

「様」

奈良県 長谷川浩行

ふしの花川面に垂れる紫の
春の陽射しに人は和みぬ

ひと夏を天下のごとく鳴くセミを
我庭先で目を細め見る

奥山の人の未踏に立入れば
苔に覆われ神秘なる森

【俳句】

秋澄みぬ

群馬県 鈴木 乗風

山深き無人の駅や鴟の糞

御七夜の指が笑いし秋澄みぬ

蟻螂の威嚇うすれて老い憂ふ

【川柳】

川柳

北海道 阿部 篤夫

知床で漁師の息子海に散る

鮭^{さけ}定置ボンベ背負って事故遭遇

二十六ウトロの星に鎮魂歌

※ウトロとは地名アイヌ語で狭い谷のこと。
九月十七日網の点検作業中の事故

石川県 東 勝一

京町屋居並ぶ赤のバケツたち

掛け声に逆らう銚の辻回し

六百年続く祭りは町方

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広報部

日整文芸は、11月20日発行分VOL.211より、会員の方に加え、一般の方々からの「短歌」「俳句」「川柳」も募集いたします。一般からの投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名及び連絡先、作品提出者名を明記し、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までと致します。多くのご応募をお待ちしております。

宛先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL: 03-3821-3521 FAX: 03-3822-2475
E-mail: kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■日整全国柔道大会は各ブロック・少年大会は各県から、予選を勝ち抜いた精鋭チームが講道館に結集、また今回から少年形競技会も加わり素晴らしい大会となった。

ところが、少年大会において試合が進むに従い応援に熱が入り、ある会場で監督・コーチが審判員に技の有効をアピールしたり、相手の反則を催促するような声が飛び交い、思わず顔を覗き込んだ。一般や学生の大会ではよくよくあることだが、少年大会ではいかなものか指導者の常識を疑う。少年柔道は勝敗のみで終わらせたくない。試合終了後、相手の健闘をたたえあって握手を求め合う、そんなホットな写真を収めたい。

(多毛家)

■第1回日整全国少年柔道形競技会で全国のブロックから選ばれた選手たちが大人顔負けの華麗な形で競い合いました。どの組が優勝するかわからないほど素晴らしい競技会でした。

その中で双子のペアが出演していました。残念ながら入賞はできませんでしたが、息がぴったり合っており、その部門があれば優勝させてあげたいくらいでした。

広報誌では掲載しきれない日整全国少年柔道大会・形競技会の模様を日整のホームページでスライドや動画で配信中です。ぜひご覧ください。

(家真舵)

■日整最大イベントである日整全国柔道大会・日整全国少年柔道大会、今年から形競技会が加わり、中身の濃い大会が成功裏に終了した。

全ての試合が国際ルールとなり、正にグレードアップされ、ビッグな大会となった。ビッグと言えば、小学生の体格、100kg超は毎年6年生に数名いるが、今年も6年生に4名出場している。しかし今年には福井県の先鋒4年生に106kgの選手が活躍した。今回、4回戦まで4試合中、3試合一本勝ち、1試合だけ引き分けで、

ベスト8（敢闘賞）に大きく貢献した。今のところすくすくと育っていますが、この先、心・技・体とも大きく成長することを期待する。

(魅家下)

■10月9日日整生涯学習での藤田紘一郎先生の講演を聞き、「失敗した」と思った。それは、13年前、私の母親も膵臓癌で世界したが、先生のお話を聞いて、当時の家庭を思い浮かべると、やはり、笑いがなくなっていて、ひたすら病状を隠すことで精いっぱいであった。もう少し早く先生の講演を聞いていたら、NK細胞を増やすことを実践し、「少しは良い結果になっただろう」と想いながら聞いていました。

これからは、ますますストレス社会に突入していくと思われるため、「笑いはNK細胞の活性を高める」「イメージトレーニングにて免疫力が活性化する」「オリゴ糖・食物繊維を摂る」「発酵食品を摂る」などのことを笑いを含めて、患者さんに話してみようと思った。

(和座尾)

■東日本大震災のため、当初は中止予定であった第38回日整親善ゴルフ群馬大会は、9月19日に開催された。復興支援するための経済活性化を目的に中止を中止にして「がんばろう東北、がんばろう日本」をスローガンに掲げ、東日本大震災復興支援チャリティーゴルフと銘打った。

大会の賞品と参加賞は、櫻井弘日整親善ゴルフ愛好会長が岩手、宮城、福島の社団法人柔道整復師会の会長からカタログを取り寄せ、特産品を揃えた。そのアイデアに多くの参加者から称賛の声が上がった。

当日ショートホールのグリーンヘワンオンしなかったプレイヤーのチャリティー募金は、ワンオンされたプレイヤーからの心温まる協力もあった。社団法人群馬県接骨師会からの拠出金を合わせ前記3県の社団法人柔道整復師会へ見舞金として贈呈したとのこと（17ページ参照）。ゴルファーの人情の機微に触れた大会であった。

(多夢楽)

「日整はつらつ！」VOL. 2 NOV 2011

平成23年11月20日 発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 萩原 正

編集者 永田 官久

制作 サン企画

印刷所 株式会社プレシーズ



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。